

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	教育原理（幼）
授業コード	BM104
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	三石 美鶴
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	幼稚園教諭、保育士、保育教諭には、幼児教育者、保育者として必要な知識・技能だけでなく、教育全般への深い理解が求められている。将来の教育者にとって必要な幅広い視野と専門的知識の両方を獲得するため、本授業では、幼児教育を中心に教育の歴史・思想、我が国や諸外国の教育制度等を学び、教育とは何か、教職の意義などについて考察する。さらに教育の現状と課題についても把握し、課題解決に取り組む態度を育成する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・小学校教員として長く教育現場で勤務してきた経験を活かし、教育全般における知識を体験に基づいて教授するとともに、保育現場でその知識を活用し、実践できる人材育成につながる講義を行う。
到達目標	<p>本学のディプロマ・ポリシーの則って、次のような知識・態度・能力の獲得を目指す。</p> <p>【知識・理解】            教育の原理とは何か、深く考察するための基礎的知識の習得            教育・保育の実践的な活動を支えるために不可欠な教育学の専門的知識の習得            変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組む総合的・学際的知識の習得</p> <p>【態度・能力】            専門職としての保育者の使命感、倫理観、規範意識の涵養            カリキュラム・ポリシーに即し、21世紀を生き抜く子どもを育成するうえで不可欠な教育学・保育学の専門的知識の学修を通して、子どもを慈しむ温かい心と命の大切さを伝える力量を備えた人材を育成することを到達目標とする。</p>
計画・内容	<p>第1回 オリエンテーション・教育の意義について考える</p> <p>第2回 教育の目的について考える</p> <p>第3回 乳幼児の教育の特性について考える</p> <p>第4回 教育と家庭福祉との関連性について考える</p> <p>第5回 人間形成と家庭・地域社会との関連性について考える</p> <p>第6回 諸外国と我が国の教育思想及び教育の歴史について調べる（グループワーク）</p> <p>第7回 諸外国と我が国の教育思想及び教育の歴史について調べたことをまとめる（グループワーク）</p> <p>第8回 諸外国と我が国の教育思想及び教育の歴史について調べたことを発表する（グループワーク）</p> <p>第9回 子ども観と教育観について考える</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第10回 教育制度の基本を理解する</p> <p>第11回 教育の法律と行政について理解する</p> <p>第12回 諸外国の教育制度と我が国の教育制度を比較・検討する</p> <p>第13回 様々な教育実践例に触れ、保育者の役割について考える</p> <p>第14回 生涯学習社会における教育の現状とこれからの教育の方向性について考える</p> <p>第15回 まとめ・理解度の確認および学修の振り返り</p>
授業の進め方	<p>前半はパワーポイントを用いて講義を行い、後半は課題を提示し、個別やグループで学修する形態とする。毎時間、課題の学修結果を提出する。グループでの協議も適時行う。</p> <p>第6回から8回まではグループでの問題解決学修とし、8回目に発表と質疑応答を行う。ただし、調査の進捗状況により発表する回を遅らせる場合がある。</p> <p>映像資料や新聞記事等を適宜活用する。</p>
能動的な学びの実施	<p>アクティブラーニングの実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について個別学修を行った後、グループでの協議を取り入れる。</li> <li>・第6回から8回まではグループによる問題解決学修とする。最終回には発表をし、全体で質疑応答の時間をとる。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習は主に授業予定の範囲の教科書を読み込むとともに、前時に示された課題について調べるなどの学修を行うこと。(1時間程度)</li> <li>・復習は学修した内容を再度確認し、習得できるようにすること。(1時間程度)</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書 『教育原理』 矢野誠慈郎、北野幸子編 中央法規 2019年</p> <p>参考書 『教育原理』 『最新 保育士講座』統括編纂委員会編 全国社会福祉協議会 2019年</p>
成績評価方法と基準	<p>授業内で指示する課題の提出 50%</p> <p>期末試験 50%</p>
課題等に対するフィードバック	<p>・毎時間の学修後に授業の振り返りを記入して提出する。それについては全てコメントを加え、次の授業にて返却するので、それを活用して学修課題や学修への取組についてフィードバックすること。</p>
オフィスアワー	<p>Canvas Squareを参照のこと。</p>
留意事項	<p>本科目は、教職を目指す者にとって必須であるため、必ず履修すること。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン(オンデマンド課題)学修15回に切り替える。</p> <p>Canvas Squareの掲示板またはレポート提出欄に課題・動画URL等を提示し、レポート提出欄から課題を提出する形式をとる。</p> <p>毎時間の課題 50% 期末のポート 50%で評価する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育者論
授業コード	BM151
英語名称	A childminder theory
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	林 直美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保育者をめざすために必要な基礎的知識を学ぶ。まず、保育者の役割と倫理について考察し、保育の仕事は何かということを理解する。次に保育士になる心構えとして制度的な位置付けや専門性について講義する。そして保育者として「教育・保育の多様な現代社会の課題に応じる力」を身に付けるために様々な関係機関との連携・協働を通じて保育者としての資質向上とキャリア形成の築き方について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	対象外
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善まで行う」保育者に必要な知識を習得することにより、保育の現場での実践に活かすことができる。 そして、カリキュラム・ポリシーに掲げる「社会人として必要な教養を習得し、保育者の原点である人間理解を深める」ために、保育者という仕事の魅力やその必要性・受容性について理解する。また、「保育者に求められる情報処理能力及び表現能力、コミュニケーション能力を育成する」ために、家庭や地域、関係機関、保育者集団から求められている役割や課題を知り、協力し合うことで保育の質の向上につなげる力を身に付ける。
計画・内容	第1回：保育という仕事 役割・職務内容 第2回：保育という仕事 倫理観の変遷 第3回：保育士の制度的位置付け 児童福祉法における保育士の定義 第4回：保育士の制度的位置付け 資格・要件 第5回：保育士の制度的位置付け 欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等 第6回：保育士の専門性 保育士の資質・能力 第7回：保育士の専門性 養護および教育の一体的展開 第8回：保育士の専門性 計画に基づく保育の実践と省察・評価 第9回：保育士の専門性 教材研究がなぜ大切か 第10回：保育士の専門性 環境を構成する保育者の役割 第11回：保育者の連携・協働 家庭との連携と保護者に対する支援

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第12回：保育者の連携・協働 地域における関係機関等との連携・協働</p> <p>第13回：保育者の連携・協働 保育者集団の一員として</p> <p>第14回：保育者としての組織力の向上</p> <p>第15回：保育者のキャリア形成の意義</p>
授業の進め方	<p>授業は基本的に講義形式で行い、パワーポイントや視聴覚教材などを適宜活用する。 必要に応じてプリントを配布する。 学生の状況に応じて授業進度を調整することがある。</p>
能動的な学びの実施	<p>授業内容に応じてコメントペーパーを配布する。 学生が課題に取り組むグループワーク（ディスカッションやディベート）などを行い、解決策を見いだす。 適宜学生への問いかけも行う予定なので、積極的な授業参加が期待される。</p>
授業時間外の学修	<p>日頃からネット・テレビ・新聞などのメディアから保育や保育者に関する情報収集し、 授業内でディスカッションを行ったり、コメントペーパーに記入したりする際に活用できるよう準備しておく。 テキストやプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。 （合計60時間程度）</p>
教科書・参考書	<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省『保育所保育指針 平成29年告示』フレーベル館、2017年</li> <li>・文部科学省『幼稚園教育要領 平成29年告示』フレーベル館、2017年</li> <li>・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』フレーベル館、2017年</li> </ul>
成績評価方法と基準	<p>【授業内評価】コメントペーパーの提出状況と記載内容（50%）</p> <p>【平常点】ディスカッションやディベートでの授業への参加の度合（20%）</p> <p>【レポート】課題に対する適切な内容・記述（30%）</p>
課題等に対するフィードバック	<p>授業内容に応じてコメントペーパーを配布し、次の授業以降においてフィードバックを行い、学生の共通理解を図る。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>本科目は資格の取得に必要であるため必ず履修すること。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方 Zoomによるオンライン授業または授業動画配信によるオンデマンド授業を実施する。 授業後、授業内容に関する課題に取り組む。</p> <p>成績評価方法と基準 【平常点】授業後の課題の提出状況と内容（50%） 【レポート】課題に対する適切な内容記述（50%）</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	臨床心理学/臨床心理学概論
授業コード	BL414
英語名称	Clinical Psychology
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	緒方 広海
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床心理学の概要や代表的な理論、心理検査、面接技法、各領域での活用のされ方などについて講義する。また、臨床心理士・公認心理師といった有資格者が実際の現場でどのように臨床心理学の理論や技法を使っているのかについて学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員（緒方）には児童相談所、小学校のスクールカウンセラー、精神保健福祉センター、発達障害者支援センター、子育て支援機関など、多様な領域で幅広く心理臨床業務に関わった経験があるので、児童虐待や依存症、自傷行為、不登校、発達障害などの様々な問題に対して心理臨床の視点からどのようにアプローチするのかについて、経験を踏まえて講義する。
到達目標	臨床心理学の理論や知見を学ぶことでこころの健康と福祉の関係性について理解する。また、他者のこころの健康に寄与するために必要な視点と手立てを習得する。 医療福祉学科がカリキュラム・ポリシーに掲げる「社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士として必要な知識や技術を得る科目を配置する。」とディプロマ・ポリシーに掲げる「広い視野をもって福祉的課題を見つけることができ、探求することができる。」に相当する。
計画・内容	<p>第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か。</p> <p>第2回 精神分析について 歴史と理論について学び、精神分析の視点に触れる</p> <p>第3回 精神分析について 面接技法について学び、精神分析の活用法を知る</p> <p>第4回 行動療法について 行動分析の理論について学び、行動から人を理解する</p> <p>第5回 行動療法について 認知行動療法について学び、認知と行動の関係性を理解する</p> <p>第6回 来談者中心療法について 人との向き合い方を学ぶ</p> <p>第7回 家族療法について 家族との関係やそれに伴う影響を学ぶ</p> <p>第8回 集団心理療法について グループでの取り組み方や集団力動について学ぶ</p> <p>第9回 コミュニティ心理学について コミュニティへの働きかけ方を学ぶ</p> <p>第10回 心理査定について 心理検査やテストの種類や活用法について学ぶ</p> <p>第11回 不登校・ひきこもりの心理臨床</p> <p>第12回 発達障害の心理臨床</p> <p>第13回 依存症（お酒、薬物、ギャンブル、ゲームなど）の心理臨床</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第14回 自傷行為・自殺企図への心理臨床 第15回 総括
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料は度を適宜活用する</li> <li>・講義内で個人ワークを行い、臨床心理学の活用の仕方に対する理解を深める</li> <li>・講義の終わりにコメントペーパーを配布して講義に対する質問を記入してもらい、次の授業の際にその質問に対する回答をする</li> </ul>
能動的な学びの実施	心理臨床における相談支援においては相手の話を傾聴するだけでなく、効果的な質問をすることが重要となることから、毎回の講義の中で学生からの質問に対して担当教官が回答する時間を設け、実際の心理臨床としての面接やアセスメントの仕方をその場で解説し、実践の場で活用するイメージを養う。
授業時間外の学修	講義で使用した資料を参考に、自分なりの臨床心理学に対する考え方を講義ノートに整理すること（合計60時間程度）
教科書・参考書	特になし
成績評価方法と基準	定期試験（50％）＋コメントペーパーでの質問内容（50％）
課題等に対するフィードバック	コメントペーパーに記載された質問は授業内で回答し、講義内容にも反映する
オフィスアワー	授業前後10分 窓口教員：中里 哲也 先生
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせる。 授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	教職概論（幼）
授業コード	BM211
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	林 直美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本授業は、教師（保育者）を目指す学生が、教職の意義や役割および社会的位置づけ等について、専門性の視点から学ぶためのものである。これらのことを学ぶことを通じて、どのような教師（保育者）になりたいかという自己の教師像（保育者像）を形成し、教職（保育者）への意欲を高め、志望を明確にする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	高校での教員経験を活かし、具体的な事例を取り上げながら教育現場の実情に即した講義を行う。
到達目標	<p>幼児保育学科のディプロマ・ポリシーにある「豊かな教養と倫理観」や「他者への共感性や思いやり、コミュニケーション能力」を身に付けるために必要な基礎的な知識の習得をめざす。</p> <p>教職（保育者）の基礎知識を理解し、教師（保育者）の仕事の概要やポイントを把握する。</p> <p>教師（保育者）として働く上で重要である主体性や共同性の基礎をグループ活動等を通して身に付ける。</p> <p>教師（保育者）となるための自覚や使命感を持ち、それによって自己の成長をめざして自律的に行動することができるようにする。</p>
計画・内容	<p>第1回 オリエンテーション（「教職」とは何か）</p> <p>第2回 教職という仕事の性格</p> <p>第3回 教職観の歴史的変遷と自己の教師像の模索</p> <p>第4回 「法」のなかで生きる教師（身分と待遇）</p> <p>第5回 授業をつくる（授業のデザイン）</p> <p>第6回 授業をつくる（授業デザインを支える教師の知識と思考）</p> <p>第7回 子どもへのまなざし</p> <p>第8回 子どもをとりまく現状と教育政策</p> <p>第9回 教師の情報リテラシー能力とは</p> <p>第10回 様々な専門職との協働（「チームとしての学校」の在り方）</p> <p>第11回 学校安全への意識形成</p> <p>第12回 地域社会との連携（開かれた学校づくり）</p> <p>第13回 保護者へのまなざし（保育者支援のあり方）</p> <p>第14回 学び続ける教師と教員研修（専門職的成長）</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第15回 まとめ（理想の教師像と教師としての使命感）
授業の進め方	授業は基本的に講義形式で行い、パワーポイントや視聴覚教材などを適宜活用する。 必要に応じてプリントを配布する。 学生の状況に応じて授業進度を調整することもある。
能動的な学びの実施	授業内容に応じてコメントンペーパーを配布する。 学生が主体的に授業に取り組むグループワーク（ディスカッションやロールプレイ）などのアクティブ・ラーニング型授業を適宜実施する。
授業時間外の学修	日頃から教師や学校に関する報道に関心を持ち、授業内でディスカッションを行ったり、コメントンペーパーに記入したりする際に活かすことができるよう準備をしておく。 参考書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。 （合計60時間程度）
教科書・参考書	【参考書】 ・佐々木幸寿編『教職概論 改訂版（教師のための教育学シリーズ）』学文社、2016年。 ・秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門 改訂版』有斐閣、2015年。 ・井藤元編『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版、2017年。
成績評価方法と基準	【授業内課題】コメントシートの記載内容（50%） 【平常点】ディスカッション等での授業への参加の度合（20%） 【レポート】課題に対する適切な内容・記述（30%）
課題等に対するフィードバック	授業内容に応じてコメントンペーパーを配布し、次の授業以降においてフィードバックを行い学生の共通理解を図る。
オフィスアワー	CampauSquareを参照。
留意事項	本科目は資格の取得に必要であるため必ず履修すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 zoomによるオンライン授業または授業動画配信によるオンデマンド授業を実施する。授業後、授業内容に関する課題に取り組む。 成績評価方法と基準 【平常点】授業後の課題の提出状況と内容（50%） 【レポート】課題に対する適切な内容・記述（50%）

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育内容総論 (U1組)
授業コード	BM203A
英語名称	Introduction to Preschool Curriculum 1
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	渡辺 令子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の特性、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園での遊びや生活の意義について、保育の5領域の保育内容とねらいの観点を総合的に理解する。</li> <li>・社会や子どもを取り巻く状況の変化をふまえながら、乳幼児の遊びや生活を通じた学びを支える保育者の役割を理解する。</li> <li>・授業は講義とアクティブ・ラーニング(ワーク・グループワーク・ディスカッション)を取り入れ、自ら主体的に考え、学び、実践的活動に繋げていけるようにする。</li> </ul>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の保育現場での保育者及び保育行政における専門職(渡辺,元公務員保育士)としての知識・経験を生かし、理論と経験を融合した授業を展開する。</li> </ul>
到達目標	<p>幼児保育学科がディプロマ・ポリシーに掲げる、2「乳幼児の心や成長に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、乳幼児の育ちに即した教育・保育について、根拠をもち説明」することができることを主眼とする。そのために以下の目標を達成するように指導する。</p> <p>(1) 保育と保育内容の関連について知り、自らの保育観や子ども観を身につける。</p> <p>(2) 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容を理解し、保育内容5領域を総合的に捉えることができる。</p> <p>(3) 子どもの発達を知り、観察・理解する力を養い、保育における計画・実践・記録・省察・改善の意義を理解する。</p> <p>(4) 多様化する保育ニーズを知り、ふさわしい保育内容を自ら考えられる力を身につける。</p>
計画・内容	<p>第1回 ガイダンス・保育内容はじめの一步</p> <p>第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方</p> <p>第3回 子どもの理解と評価の考え方</p> <p>第4回 指導計画の作成の理解</p> <p>第5回 遊びや生活を通して学ぶということ</p> <p>第6回 養護と教育が一体的に展開する保育</p> <p>第7回 子どもの主体性を尊重する保育</p> <p>第8回 環境を通して行う保育</p> <p>第9回 グループワーク 「子どもの主体性を尊重する保育環境～私たちが考える保育環境」</p> <p>第10回 グループワーク 「 のグループワークの発表」</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第11回 グループワーク 「グループワークの振り返り」</p> <p>第12回 個と集団の育ちを支える保育</p> <p>第13回 小学校への接続をふまえた保育 保育の多様な展開</p> <p>第14回 家庭や地域との連携をふまえた保育</p> <p>第15回 講義・主体的学びのまとめ</p>
授業の進め方	<p>実際の保育現場等の映像を教材に取り入れながら、講義とワーク・グループワーク・ディスカッション・発表を中心とした授業を展開する。</p>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では教科書の写真や実際の保育現場等の映像から、学生自身が感じたり、考えたり、想像したり、互いに話し合ったりしながら理解を深めていく。</li> <li>・グループワークでは、実際の保育環境を検討し、「私たちが考える保育環境」の発表を行う。</li> <li>・課題活動では保育教材を作成し模擬保育を行う。さらに、模擬保育を観察、意見・感想を伝え合うことで、実践の技術・理解を深めていく。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業においては、予習として次回の授業内容に関する教科書及び保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、配布資料を通読しておくこと。（30分程度）</li> <li>・教科書や授業で配布された資料と関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（30分程度）</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書 渡邊英則・大豆生田啓友 編著 「新しい保育講座 保育内容総論」 ミネルヴァ書房 2020年 教科書 厚生労働省「保育所保育指針」,文部科学省「幼稚園教育要領」,内閣府・厚生労働省・文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 教科書及び指針・要領の3冊は第2回授業から必ず持参すること。</p>
成績評価方法と基準	<p>試験（40%）+ 課題活動「保育教材の作成と模擬保育」（40%）+ 授業中のワーク（20%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の毎回のワーク・リアクションペーパーについては、次回授業においてフィードバックする。</li> <li>・課題活動については、コメントを付与して返却する。</li> <li>・学生の発表やグループワークの発表については、その都度コメントを行う。</li> </ul>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士資格取得のための必修科目であるから履修すること。</li> <li>・第1回目授業でガイダンスを行います。授業に必要な持ち物、教科書、課題活動等の説明を行います。必ず出席してください。</li> </ul>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>zoomによるオンライン授業及び、CampusSquareを活用した課題学修とする。 試験（40%）+ レポート（40%）+ 授業中のワーク（20%）</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育実習指導 (保育所) (U2組)
授業コード	BM265B
英語名称	Practical Childcare Training Guidance 1 (Nursary School)
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	富岡 麻由子, 松山 寛, 田口 直子, 秋本 史江, 高橋 由佳, 高瀬 真由美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「保育実習 (保育所)」は保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習指導 (保育所)」はその実習のための事前・事後の指導を行う。実習前には、日誌・指導案作成の留意点、提出書類等の作成等の具体的準備を行う。また、実習に際して求められる心構えを理解する。実習後には、実習での経験の振り返りと課題の共有、実習施設による評価の参照により、以後の自身の学習課題を明確にする。幼児保育学科のディプロマポリシーに掲げる、保育者に必要な倫理観を身につけること、保育・乳幼児に関する知識や技能を体系的に理解すること、保育の実践力を獲得することを目指す。また、カリキュラムポリシーの「6. 学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目 (保育・教育実践に関する科目)」である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士資格保有者 (富岡)、保育士としての勤務経験者 (松山) 保育所や子育て支援施設での勤務経験者 (田口) が担当する。また保育現場で園長等の実務経験のある外部講師による指導を行うことで、実践的で具体的な知識と技術が得られる授業を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割、保育士の専門性、職務内容を理解する。</li> <li>2. 実習生に必要な学習態度や資質を理解し身につける。</li> <li>3. 保育のねらいや乳幼児の発達にあった保育内容を考え、実践の技術を習得する。</li> <li>4. 実習日誌の記入内容、部分実習および責任実習の指導計画の作成を学ぶ。</li> <li>5. 各自が自身の課題を考え、実習での研究課題を設定する。</li> <li>6. 実習後の省察を行い、今後の学習課題を明確化する。</li> </ol> <p>これらの到達目標の達成により、幼児保育学科のディプロマポリシーに示されている、観察・理解力を身に付けること、乳幼児の発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善を行うこと、他者への共感性や思いやり、コミュニケーション力を身に付けることを目指す。</p>
計画・内容	<p>各回とも担当教員全員 (富岡、松山、田口) が担当する。外部講師として指定回の高橋、秋本、&lt;未定&gt;も担当する。( )内はメインで担当する教員。</p> <p>第1回授業          授業ガイダンス (富岡)          実習の目的と内容 (手引き) (富岡)          事務関連書類 (田口) 実習生調書 誓約書</p> <p>第2回授業          日誌 日誌の意義・概要 (富岡)          事務関連書類 (田口) 実習園の承諾書コピー 健康診断書          実習生調書のフィードバック (田口)</p> <p>第3回授業          外部講師による講義 (未定) 「保育所での生活の様子・環境の特性」</p> <p>第4回授業          日誌 観察・エピソードの記録 (富岡)</p> <p>第5回授業          日誌 時系列の記録 (松山)</p> <p>第6回授業          日誌 実習のねらいと考察 (松山)</p>

## 2025年度 千住学部時間割

<p>計画・内容</p>	<p>第7回授業          日誌 実習の目標（富岡）          実習園のリサーチ（松山）          事務関連書類（田口） 実習先オリ・日程調整 細菌検査 健康記録表</p> <p>第8回授業          事務関連書類（田口） 巡回指導訪問資料          絵本読み聞かせ 絵本の選び方（松山）</p> <p>第9回授業          絵本読み聞かせ 実践の留意点と指導案（富岡・松山）</p> <p>第10回授業          保育の実践と指導案（富岡・松山）          指導案のフィードバック          読み聞かせグループ演習、課題 外部講師講評（高橋）</p> <p>第11回授業          外部講師による講義（秋本）「保育所実習の心得」</p> <p>第12回授業          まとめ</p> <p>第13回授業          事後指導 実習の振り返り</p> <p>第14回授業          事後指導 実習の振り返りの共有</p> <p>第15回授業          事後指導 実習園評価のフィードバックと自己評価</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>講義と演習を行う。映像を観ての日誌作成の演習、読み聞かせのロールプレイ等の演習を取り入れる。日誌・実習の手引きを毎回使用するので必ず7号館の紀伊国屋で購入すること。休講日がある（次年度前期に実施する事後指導分の3回）。具体的な日程は授業開始時に伝達するので、スケジュールに留意すること。この授業では、出席回数、遅刻欠席等の事前連絡、課題・書類の提出に関して厳密に評価をする。詳細はシラバスの留意事項、実習の手引き、初回授業での配布資料を各自よく確認すること。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>実習先への提出書類等を実際に学生が作成する。グループワークや発表を通して学生が相互に評価したり自身の課題についての気づきが得られるようにする。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>授業前は、手引きや日誌で授業内容に該当する箇所を確認する。授業後は授業内容の復習と課題に取り組む（合計60分間程度）。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>「教育実習・保育実習の手引き」          授業初回前に実習日誌を必ず購入すること。</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>授業参加（20%）、課題・実習書類等の提出期限の順守、提出の有無、内容（80%）で評価する。</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>実習の目標、実習日誌、指導案、外部講師講義レポート等を添削して返却する。また、全体に関わるフィードバックは授業内で行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>CampusSquareを参照のこと。</p>
<p>留意事項</p>	<p>この授業の遅刻欠席、実習先に関する連絡等は、大学付与の学生メールアドレスから指定の教員メールアドレス宛に行うこと。電話、ラインメッセージ等、メール以外の手段での連絡は受け付けない。</p> <p>この授業には履修の条件がある。以下の場合には実習指導、実習とも履修できない。          2年前期までの修得単位数が36単位未満の場合</p> <p>手引きに実習実施の要件が記載されている。学生自身がその要件を満たしているかを確認すること。また、「実習が許可されない場合」についてもよく読み理解をして、授業に望むこと。この授業の事前指導</p>

## 2025年度 千住学部時間割

<p>留意事項</p>	<p>について、以下に該当し指導が不十分と判断される場合は、実習指導は中止となりこの授業の単位修得はできなくなる。また、実習は中止となる。</p> <p>無断欠席・無断遅刻（授業開始後の連絡は認めない）          （事前連絡があった場合でも）3回以上の遅刻・欠席          度重なる課題・書類の提出の遅れ          健康状態に不安があると判断された場合          学則違反する行為があり懲戒の対象となった場合          その他不適格と判断された場合</p> <p>以下の場合も実習、実習指導両方の単位修得ができないことに留意すること。</p> <p>事前指導を満了し実習を行ったが、実習の成績がE/もしくは成績がつかなかった場合          事前指導を満了し実習を行い、実習の成績がA～Dだったが、実習後に実施する事後指導を受けなかった場合</p>
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>非対面での授業実施となった場合は、zoomによるオンタイム（時間割での開講時間）のオンライン授業を行う。対面授業と同様に、授業参加（20%）、課題・書類等の提出期限の順守、提出の有無、内容（80%）より成績評価を行う。オンラインの授業においても、授業にで留意すべきことは対面の授業と同様である。通信環境を整えて授業に臨むこと。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育実習（保育所）
授業コード	BM269
英語名称	Childcare Training 1
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	富岡 麻由子, 松山 寛, 田口 直子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	保育実習（保育所）は、保育士資格取得のために必要な科目「保育実習」に含まれる、認可保育所、認可保育園、認定こども園（以下、保育所）における実習の一期目にあたる。原則として、大学2年次の冬期に実施する。幼児保育学科のディプロマポリシーに掲げる、保育者に必要な倫理観を身につけること、乳幼児の心や成長に関する知識や技能を体系的に理解すること、保育の実践力とコミュニケーション能力を獲得することを目指す。また、カリキュラムポリシーの「学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目（保育・教育実践に関する科目）」である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	実習を行う前に、事前指導として保育士資格保有者（富岡）、保育士としての勤務経験者（田口、松山）、また保育現場で園長等の実務経験のある外部講師による指導を行う。実習施設となる保育所・こども園等で現職の保育士等から直接指導を受ける。
到達目標	保育実習（保育所）では、既習の事項や学内での学びを基に、保育に関する実践的な知識と技術を獲得するため、目的を以下とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の役割と機能を具体的に理解する。</li> <li>・保育士としての業務内容および職業倫理を理解する。</li> <li>・乳幼児の発達と保育士の援助を具体的に学ぶ。</li> </ul> これにより、幼児保育学科のディプロマポリシーに示されている、観察・理解力を身に付けること、乳幼児の発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善を行うこと、他者への共感性や思いやり、コミュニケーション力を身に付けることを目指す。
計画・内容	保育所（認可保育所）、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園において、10日間以上、80時間以上の保育所実習を行う。原則として観察実習、参加実習、部分実習を通して、保育者の補助を行ったり、子どもと直接かかわったりしながら保育の実践法を学習する。実習の目的を踏まえ、以下を実習の内容とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園の役割と機能、保育理念を理解する。</li> <li>・実習園の子どもの生活の実際を理解する。</li> <li>・子どもの遊び、生活、基本的習慣獲得のための保育士の関わりや援助を具体的に学ぶ。</li> <li>・子どもの安全・安定・疾病予防に関わる配慮について具体的に学ぶ。</li> <li>・子どもの観察・関わりや援助を通して、子どもの心情・関心への理解を深める。</li> <li>・記録の作成と指導により実習を省察し、保育・子ども理解を深める。</li> <li>・生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。</li> </ul> 実習園でのこども生活と発達の概況を知るため、複数のクラスで見学・観察実習を行う。そして、実習の進展にしたがい、参加実習、部分実習を段階的に経験する。具体的なスケジュールや配分は、実習園の実習指導の方針、保育の計画に沿って決められる。
授業の進め方	直接、保育所等に通り実習を行う。実習中に巡回指導担当教員が実習園に赴き、学生への直接の指導緒を行う。
能動的な学びの実施	保育現場に身を置き、保育所の役割、保育士の職務、乳幼児の生活と保育者の関わりへの理解を深める。また具体的な保育実践を経験し、保育士に必要な資質能力を高める。

## 2025年度 千住学部時間割

授業時間外の学修	毎日の実習終了後に実習の振り返り、日誌の作成、翌日の学習課題の設定などを行う。
教科書・参考書	特になし。
成績評価方法と基準	実習園の評価（80%）、実習日誌の提出状況と内容（20%）により評価する。実習生の責任において実習を完了しなかったり、実習園の評価が著しく低く十分な学習が認められない場合、実習の事後指導を受けなかった場合は、単位が付与されない。
課題等に対するフィードバック	実習の事後指導を行う。
オフィスアワー	Campus Square参照。 実習中の実習に関する連絡や相談は、実習担当、巡回指導担当教員に行う。
留意事項	特別な事情でやむを得ず欠席・遅刻・早退となる場合は、実習生は事前に実習園の責任者および大学、巡回指導担当教員に連絡をする。実習生の責任において、無断で実習先オリエンテーションおよび実習を欠席・遅刻・早退した場合、実習を中止する。そのほか、実習の手引きに記載されている事項を理解し実習に望むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	感染症対策等、実習施設の都合により実習が延期・中止になる場合がある。定められた期間での実習の完了が見込めない場合は、時期や実習施設を変更して合計80時間以上の実習を行う。成績評価は通常時と同様、実習施設の評価（80%）、実習日誌の提出状況と内容（20%）により評価する。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育実習指導 (施設)
授業コード	BM264
英語名称	Practical Childcare Training Guidance 1 (Welfare Institution)
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	渡辺 令子, 呂 暁丹, 安部 久美, 小下 聡子, 廣川 美也子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	ディプロマポリシーに掲げる「3. 子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善まで行うことができる。【子ども理解・保育を実践する力】」に関する科目として、保育士としての職務や役割への理解、保育内容・援助技術を深めるため、施設(児童福祉施設等)で10日間の実習を行う。本科目は保育実習(施設)の事前指導の位置づけでこの授業を行う。卒業後の職業生活上に必要な汎用的技能を獲得するための科目でもある。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士資格を有した本学教員(渡辺、元公立保育士。保育所・障害児通園施設・保育行政管理職など経験)と発達障害を専門に研究している本学教員(呂、支援センター顧問)、幼稚園教諭免許を有した本学教員(安部、元幼稚園教諭。施設実習担当の経験)、非常勤講師(廣川、現障害者施設施設長、村田、障害者福祉施設施設長・小下、元公立保育園園長)がそれぞれの立場から現場の状況を紹介し、施設実習における心構えや専門的な学びに導く。
到達目標	カリキュラムポリシーの「6. 学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目(保育・教育実践に関する科目)」の目標に達するために、以下の目標を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士として必要な知識・能力・技術を実践で身につける(気づく、学ぶ、試みる)。</li> <li>・施設(児童福祉施設等)におけるニーズを理解し専門職としての判断力を培う。</li> <li>・施設(児童福祉施設等)における組織の運営や組織内外との連携などを学ぶ。</li> </ul>
計画・内容	第1回 授業ガイダンス「実習の意義・概要・到達目標・実習の条件と各種手続き」「事務説明」(担当 渡辺・呂・安部・小下) 第2回 講義「実習先施設(施設の種別・内容・利用児者)」課題「学びのシート・講義の感想文作成」「事務説明」(担当 渡辺・呂・安部・小下) 第3回 講義「実習日誌の書き方 時系列記録」課題「実習日誌作成 時系列」「事務説明」(担当 渡辺・呂・安部・小下) 第4回 講義「障害者施設の概要と現状」課題「学びのシート・講義の感想文作成」 課題「実習日誌作成 時系列の講評と助言」「事務説明」(担当 廣川、障害者施設施設長・渡辺・呂・安部・小下) 第5回 演習「実習日誌の書き方 エピソード記録」 課題「実習日誌作成 エピソード」 課題「実習施設の場所・概要調べ」(担当 渡辺・呂・安部・小下) 第6回 講義「施設に求められる保育士の役割」課題「学びのシート・講義の感想文作成」 課題「実習施設の場所・概要調べの講評と助言」「事務説明」(担当 村田、障害者施設施設長・渡辺・呂・安部・小下) 第7回 講義「実習の目標」 課題「実習の目標の作成」「事務説明」(担当 渡辺・呂・安部・小下)

## 2025年度 千住学部時間割

<p>計画・内容</p>	<p>第8回 講義「実習の実践 観察・参加・部分実習について」 課題「実習の実践 部分実習指導案作成について」「事務説明」(担当 渡辺・呂・安部・小下)</p> <p>第9回 講義「実習の目標 目標の講評と助言」「事務説明」(担当 渡辺・呂・安部・小下)</p> <p>第10回 課題「目標の清書」、講義「実習の実践 部分実習指導案の講評と助言」「事務説明」(担当 渡辺・呂・安部・小下)</p> <p>第11回 演習「実習の実践 参加・部分実習の実践 前半組」 課題「実践した振り返り」「実践者への意見・感想」「事務説明」(担当 渡辺・呂・安部・小下)</p> <p>第12回 演習「実習の実践 参加・部分実習の実践 後半組」 課題「実践した振り返り」「実践者への意見・感想」「事務説明」(担当 渡辺・呂・安部・小下)</p> <p>第13回 講義「事前指導のまとめ～実習事前最終確認」「お礼状の書き方」(担当 渡辺・呂・安部・小下)</p> <p>【事後指導】</p> <p>第14回 事後指導「実習の振り返りレポート作成」個別フィードバック「成績評価表と自己評価」(担当 渡辺・呂・安部・小下)</p> <p>第15回 事後指導「実習報告会」(担当 渡辺・呂・安部・小下)</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>講義と演習の授業を行い、後期授業の2回分を休講とし、次年度前期に事後指導として、2コマ続きの授業に充てる。</p> <p>事後指導の日程は7号館4階掲示板及び大学メールにて通知するので必ず確認すること。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>施設の現場の現状と理論上の学修を活かし、実習日誌の書き方を通して、エピソードやケースの分析を行うことにより、施設（児童福祉施設等）の状況を実践的に理解する。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>予習：30分 手引きの授業箇所に通す 復習：30分 ノートのまとめ・調べ学習</p> <p>・実習先施設について調べ学修を行う。実習先施設の状況を事前に把握、理解するために、実習先施設のホームページ及び保育実習の専門教科書、福祉系の専門書を参考に、詳細を調べ、事前準備を行う。 ・部分実習指導案作成、及び指導案に基づく模擬実践の準備をする。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>教育・保育実習の手引き 保育実習日誌 <span style="float: right;">参考書「新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版」同文書院 石橋裕子・林 幸範 編著 2023年</span></p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>授業参加（20％）、課題・書類等の提出期限の遵守、提出の有無、内容（80％）</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>課題学修については、個々にフィードバックを行う。 実習後の事後指導において、施設の評価等の個別面談、振り返りシートの記載、実習生全体による実習報告会にてフィードバックを行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>Campus squareを参照</p>
<p>留意事項</p>	<p>この授業を履修する学生は、「保育実習指導（施設）」と「保育実習（施設）」の両方を履修登録し、第1回授業ガイダンスにおいて詳細を説明するため、必ず出席する。【持ち物】保育実習日誌（施設：青表紙）・実習の手引き・筆記用具</p> <p>2年生前期までの取得科目が36単位未満の学生は「保育実習指導（施設）」、「保育実習（施設）」共に履修ができない。</p> <p>実習指導のうち事前指導について、次の&lt;&gt;内の事項（詳細は実習の手引き参照）について、指導不十分と判断された場合、保育実習（施設）も許可されない。保育実習指導（施設）は中止となり、単位修得もできない。&lt;無断欠席,無断遅刻,無断早退の場合（事後連絡でも・連絡ありでも）3回以上の欠席の場合・課題・書類の提出の遅れや未提出があった場合・健康状態に不安があると判断された場合・学則違反する行為があり懲戒の対象となった場合・保育士資格を取得しない場合・本学科が不適格と判断した場合&gt;</p>

## 2025年度 千住学部時間割

留意事項	<p>事前指導を満了し実習を行ったが、実習施設の評価が「E」、もしくは成績がつかなかった場合は、保育実習指導（施設）、保育実習（施設）両方の単位修得ができない。</p> <p>事前指導を満了し実習を行い、実習施設の評価がA～Dだった場合においても、実習後、次年度前期に実施する事後指導を無断欠席、無断遅刻、無断早退（事後に連絡があった場合でも）した場合、また事後指導を受けなかった場合、保育実習指導（施設）、保育実習（施設）両方について単位修得ができない。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>非対面授業になった場合 授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信します。</p> <p>成績評価方法と基準 授業参加（20%）、課題・書類等の提出期限の遵守、提出の有無、内容（80%） zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、成績(100%)で評価する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育実習（施設）
授業コード	BM266
英語名称	Childcare Training 1
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	渡辺 令子, 呂 曉丹, 安部 久美, 小林 咲里亜, 林 直美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	ディプロマポリシーに掲げる「3. 子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善まで行うことができる。【子ども理解・保育を実践する力】」に関する科目として、保育士としての職務や役割への理解、保育内容・援助技術を深めるため、施設(児童福祉施設等)で10日間の実習を行う。本科目は保育実習指導（施設）の事前指導の位置づけでこの授業を行う。卒業後の職業生活上に必要な汎用的技能を獲得するための科目でもある。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本学教員の渡辺（元公務員保育士。保育所・障害児通園施設の実務経験，保育行政・相談援助窓口等管理職経験）が担当間及び施設と連携を取りながら、学科教員と非常勤講師により巡回訪問指導を行う。
到達目標	幼児保育学科のカリキュラム・ポリシーに掲げる、6「学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目（保育・教育実践に関する科目）」の目標に達するために、以下の目標を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士として必要な知識・能力・技術を実践で身につける（気づく、学ぶ、試みる）。</li> <li>・施設（児童福祉施設等）におけるニーズを理解し専門職としての判断力を培う。</li> <li>・施設（児童福祉施設等）における組織の運営や組織内外との連携などを学ぶ。</li> </ul>
計画・内容	<p>保育実習（施設）における実習の目的や意義を理解し、保育士の役割と職務のあり方を学ぶことにより基礎能力の養成を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育実習指導（施設）」事前指導を受講、必要書類を作成・提出し、実習施設のオリエンテーションと巡回教員事前指導を受ける。</li> <li>2. 実習課題・細菌検査等の結果などの必要書類を持参し、実習を児童福祉施設等で行う。</li> <li>3. 実習施設にて、一日の流れを理解し、職員と利用児・者のかかわり、日常生活のための支援方法や技術を観察する。職員間のチームワークや勤務についてなどを学び、生活介助等支援の一部を自らも試みる。さらに、部分実習等においては、実習施設の利用目的に合わせて、計画・実施・振り返りをする。</li> <li>4. 実習の目標に合わせた日々の目標を実行し、自己評価と今後の課題を実習日誌にて振り返る。</li> <li>5. 実習日誌には利用児・者の状況及び指導者の支援方法等の観察し、自ら実行したことを具体的に記述し、利用児・者の理解や支援のあり方を考察し深める。</li> <li>6. 巡回指導教員との実習前・中・後の報告・連絡・相談をしっかりと実行する。特にやむを得ない理由での欠席、交通機関の遅延等に関する連絡においては、実習生であり社会人としての態度が取れるようにする。巡回訪問においては実習の状況や質問など積極的な姿勢で指導を受ける。</li> <li>7. 実習日誌は毎日提出し、指導者の評価をいただく。指導いただいたことを翌日の実習に活かしていく。</li> <li>8. 実習終了後、実習日誌に全体の振り返りを記載し、速やかに施設に提出する。さらに、感謝の意を込めてお礼状を書き、実習施設へ送る。</li> </ol> <p>実習巡回指導は担当教員を中心に、学科教員と非常勤講師の協力を得て、各施設に訪問し個別指導を行う。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	
授業の進め方	直接、施設に行き実習を行う。 その際、実習先の指導者および巡回指導教員の指導に従う。
能動的な学びの実施	施設の現場の現状と理論上の学修を活かし、実習日誌の書き方を通して、エピソードやケースの分析を行うことにより、施設（児童福祉施設等）の状況を実践的に理解する。主体的・能動的な態度で実習を行い、利用児・者の状況をよく観察し関わり合う中で、時系列・エピソードについて実習日誌に具体的に記載し、考察する。それらを通して、施設と保育者（支援者）の役割、利用児・者の状況を深く理解することが望ましい。
授業時間外の学修	各種の施設(児童福祉施設等)で実習する。 予習：前日の実習の振り返りから翌日の課題を明確にする(20分) 復習：実習日誌の記録を作成する(40分)
教科書・参考書	保育実習の手引き 実習日誌
成績評価方法と基準	成績評価方法と基準 <実習施設の評価> ・本学指定の実習評価表により実習施設において評価 ・5項目の5段階評価と総合評価の5段階評価と総合所見（80%） <大学の評価> ・実習日誌の提出状況、内容の記載状況（20%）
課題等に対するフィードバック	実習後の事後指導において、個別面談とグループディスカッションの講評にてフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	保育士の資格認定の必修科目である。この科目は「保育実習指導（施設）」履修と連動しており、次年度前期にて事後指導を終えた後の評価となるため、次年度前期評価とする。 また、実習中、無断欠席・無断遅刻・無断早退をした場合は、実習を中止する。やむを得ない理由による欠席・遅刻・早退が生じる場合は、必ず 実習先、巡回指導教員 実習担当渡辺に事前に連絡する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	実習施設から施設内の感染症等や本人の感染症等の事由により、実習の日程、若しくは実習施設を変更し、合計80時間以上の実地における実習を行うこととする。  成績評価方法と基準 <実習施設の評価> ・本学指定の実習評価表により実習施設において評価 ・5項目の5段階評価と総合評価の5段階評価と総合所見（80%） <大学の評価> ・実習日誌の提出状況、内容の記載状況（20%）

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育実習指導
授業コード	BM31A
英語名称	Practical Childcare Training Guidance 2
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	松山 寛, 宮木 弘子, 富岡 麻由子, 田口 直子, 秋本 史江
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保育現場での実務経験のある外部講師と本学教員（松山・田口）による講義、演習、実技を通して、保育士をめざすために必要な幅広い知識、及び保育士をめざす上で、保育実習（保育所）の目的・内容や取り組みについて理解し、保育士のあり方を学ぶことにより社会的基礎能力の養成について学ぶ。 保育士資格取得のための必修科目である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育所の役割・機能、関連法規の理解、保育所実習における実習態度、研究態度、対象児の理解の方法、具体的な援助方法、実習記録の作成方法等を、保育士として保育経験のある教員が指導する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所での乳幼児の生活、活動、遊びについて、具体的な子どもとのかかわり方、子どもへの援助のしかた等を身につける。</li> <li>・保育実習(保育所)に向けての事前準備や事後の自己評価等をとおして、保育士としての実践力を身につける。</li> </ul> <p>幼児保育学科のディプロマポリシーに示されている、観察・理解力を身に付けること、乳幼児の発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善を行うこと、他者への共感性や思いやり、コミュニケーション力を身に付けることを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回 保育所実習事前指導オリエンテーション、事前書類（松山・富岡・田口）</p> <p>第2回 事前書類の確認、実習目標の作成、実習園の概要（田口・松山・富岡）</p> <p>第3回 保育現場と計画（外部講師）</p> <p>第4回 実習目標のフィードバック、実習指導案の書き方（松山・富岡・田口）</p> <p>第5回 保育実習 の実習日誌の振り返り（指摘事項の確認）（松山・富岡・田口）</p> <p>第6回 保育実習 の実習日誌の振り返り（課題の共有）（富岡・松山・田口）</p> <p>第7回 実習日誌の書き方（エピソード）（富岡・松山・田口）</p> <p>第8回 実習先オリエンテーション、実習指導案の共有（田口・松山・富岡）</p> <p>第9回 巡回事前指導について、実習指導案の共有（田口・松山・富岡）</p> <p>第10回 模擬保育（松山・富岡・田口）</p> <p>第11回 実習における心構え～責任実習に向けて～（秋本）</p> <p>第12回 レターパック準備、実習直前指導（松山・富岡・田口）</p> <p>第13回 事後指導：実習における自己評価（松山・富岡・田口）</p> <p>第14回 事後指導：実習における学びの共有（松山・富岡・田口）</p> <p>第15回 事後指導：評価表に基づいたフィードバック（松山・富岡・田口・秋本・外部講師）</p>
授業の進め方	<p>演習形式で行う。実習書類、実習日誌、実習指導案の作成を行う。</p> <p>予習：指示がある場合にはそれに従う。指示のない回は、実習日誌、実習指導案作成に関する本を読んでおく。</p> <p>復習：配付資料や授業中書きとめたメモをまとめ、実習の準備に役立てる。</p>
能動的な学びの実施	園の実態に合わせた指導案を考え、授業内で共有を行う。

## 2025年度 千住学部時間割

授業時間外の学修	・授業前にあらかじめ教育実習・保育実習の手引き、教科書、参考書を熟読し、不明な点をまとめておく（各回1時間～2時間）。
教科書・参考書	教科書：「教育実習・保育実習の手引き」 参考書：「保育所保育指針<平成29年告知>」 フレーベル館 厚生労働省編 「保育所保育指針解説」 フレーベル館
成績評価方法と基準	授業参加（20%） 課題・書類等の提出期限の順守、提出の有無、内容（80%）
課題等に対するフィードバック	実習指導案、実習の目標等についてフィードバックを行う。 また、実習園の評価について個別にフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	・実習日誌、教育実習・保育実習の手引きを必ず購入する。 ・無断欠席・無断遅刻・無断早退をすると実習に参加できない。 ・無断でない欠席を3回した場合も実習に参加できない。 ・教育実習・保育実習の手引きに「実習が許可されない場合」の条件が記載されているので、必ず確認しておく。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoomで授業を行い、WebClass・CampusSquareを通してオンラインで課題を提出する。 成績評価方法と基準 評価基準は変更せず、オンラインで課題の評価・フィードバックを行う。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育実習
授業コード	BM31B
英語名称	Childcare Training 2
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	松山 寛, 富岡 麻由子, 田口 直子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保育所と保育士の職務内容、社会的役割と求められる倫理観を理解すること、保育士としての子どもとの関わりや保護者支援の具体的実践を保育現場で知ること、計画を立て実際に行う経験を通して保育の実践を学ぶこと、保育現場での学びを振り返り自身の学習課題を明確にすることを目的とする。 保育士資格取得のための必修科目である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士としての勤務経験者（松山、田口）及び保育現場で園長等の実務経験のある外部講師による事前指導を受けたのち、保育現場での実践を通じた学習を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める</li> <li>2．子どもの観察や子どもとの関わりを通して保育の理解を深める</li> <li>3．既習の知識を基礎とし、保育実習（保育所）の経験を踏まえ、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ</li> <li>4．保育の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組み理解を深める</li> <li>5．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に取り組み理解を深める</li> <li>6．保育士としての自己の課題を明確にする</li> </ol> <p>幼児保育学科のディプロマポリシーに示されている、観察・理解力を身に付けること、乳幼児の発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善を行うこと、他者への共感性や思いやり、コミュニケーション力を身に付けることを目指す。</p>
計画・内容	保育所（認可保育所）、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園において、10日間以上、80時間以上の保育所実習を行う。原則として観察実習、参加実習、部分実習を通して、保育者の補助を行ったり、子どもと直接かかわったりしながら保育の実践法を学習する。また、園の方針や子どもの様子を学び、保育士の指導を受けながら指導案を立案して、責任実習を行うことで保育実践を試みる。 ただし、具体的な内容については実習園の指導に従う。
授業の進め方	・授業の進め方 直接、保育所に通って実習を行う。 その際、実習先の保育者および巡回指導教員の指導に従う。
能動的な学びの実施	保育現場に身を置き、保育士の職務、乳幼児の個々の発達を理解し、また具体的な保育実践を経験し、実際に指導計画を立てて実践することで保育士に必要な資質能力を高める。
授業時間外の学修	・授業外学習（合計60時間程度） 予習：前日の実習の振り返りから、次の実習での課題を明確にする。 子どもたちの年齢や発達にあった実習指導案を作成する。 復習：実習日誌の記録を作成する。

## 2025年度 千住学部時間割

教科書・参考書	教育実習・保育実習の手引き
成績評価方法と基準	実習園評価（80%） 実習日誌の提出期限の遵守、内容（20%）
課題等に対するフィードバック	保育実習指導 の事後指導で保育所実習の振り返りをする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	保育士の資格認定の必修科目であり、保育実習 か のどちらかを履修する必要がある。 この科目は「保育実習 」事前指導履修と連動しており、単位認定は3年後期の事後指導後に行われる。 また、実習を無断で欠席したり遅刻したり早退したりした場合は、実習を中止する。やむを得ず欠席したり遅刻したり早退したりする場合は、必ず実習先、大学、巡回指導教員に事前に連絡する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	時期ないし、実習施設を変更し、合計80時間以上の実地における実習を行う。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育実習指導
授業コード	BM302
英語名称	Practical Childcare Training Guidance 3
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	渡辺 令子, 大久保 健, 小下 聡子, 小林 咲里亜, 林 直美, 草間 健二
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<p>本学教員（渡辺：障害児通園施設・地域子育て支援担当・相談援助窓口等の実務経験元公務員保育士）と非常勤講師（小下,元公立保育園園長、草間,現障害者福祉施設看護師）が講義・演習授業をする。保育実習で学んできた保育士としての職務や役割への理解、保育内容・援助技術をさらに深めるため、児童・社会福祉施設等において10日間の実習を行う。実習は、事前学習での学び、利用児・者の活動の様子、指導者の援助の仕方などを観察することからはじめ、一日の流れ、人的・物的環境を把握し、実践を通じた専門性の習得を目的とする。本授業においては実習に主体的・能動的に取り組めるよう実践的な準備を行う。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>児童福祉施設等保育士をめざす上で必要な児童福祉施設等の役割や機能、実習における実習態度、研究態度、対象者の理解、援助能力、実習記録、実習評価の概要を知り、さらに、児童福祉施設等経験のある非常勤講師による演習、課題提示により実践力を高めていく。</p>
到達目標	<p>幼児保育学科のカリキュラム・ポリシーが掲げる、6.「学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目（保育・教育実践に関する科目）」の目標に達するために、以下の目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士として必要な知識・能力・技術を実践で身につける（調べる、学ぶ、自らも試みる）。</li> <li>・施設（児童福祉施設等）におけるニーズを理解し専門職としての判断力を高める。</li> <li>・施設（児童福祉施設等）における組織の運営や組織内外との連携などの学びを深める。</li> </ul>
計画・内容	<p>第1回 実習事前指導ガイダンス（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員） 保育実習 の内容と手続き</p> <p>第2回 事前書類、実習施設の概要について（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第3回 「児童福祉施設の現状、地域の子育て支援の現状から保育者が求められること」、個別ワーク（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第4回 「障害者施設の現状と他職種連携」（担当 草間,障害者施設看護師） テーマに基づくディスカッションを通して学びを深める（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員・草間）</p> <p>第5回 実習目標の作成について（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第6回 実習目標の添削・完成（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第7回 実習の観察と記録の方法 実習日誌の書き方（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第8回 実習の観察と記録の方法 実習日誌を書いてみよう（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第9回 部分実習指導案 部分実習の活動内容とねらい・指導案の作成の仕方（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第10回 実習における準備、実習先オリエンテーション内容と手続き（担当 渡辺） 部分実習指導案 部分実習の活動内容とねらい、指導案の講評（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第11回 巡回指導教員発表と学内事前指導について（担当 渡辺） 部分実習指導案 -1 部分実習指導案の模擬実践（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第12回 部分実習指導案 -1 部分実習指導案の模擬実践（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第13回 事前直前指導（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>(以下は事後指導)</p> <p>第14回 事後指導 実習の振り返り（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p> <p>第15回 事後指導 実習の振り返り（担当 渡辺・小下・小林・新規未定教員）</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回演習形式による授業を実施する。</li> <li>・2回分休講し、後期期間に事後指導として実施する。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の実習先の福祉現場のニーズと状況に合わせた目標や指導案、日誌を設定し、授業内で内容の共有、検討を行っていく。</li> <li>・外部講師による講話後、テーマに基づいてディスカッションを行い、お互いの気付きや考えを交換し合い、さらに講師からの助言もいただき、学びを深めていく。</li> <li>・実習施設での保育を想定した部分実習指導案を作成し、模擬実践を経験すると共に、他の学生の模擬実践を観察したり、利用児・者となり参加したりすることを通して、実践力の技術の向上と利用児・者の立場を理解し支援できるよう能動的な学びの実施を行う。</li> </ul>
授業時間外の学修	<p>予習：30分 手引きの授業箇所に通す</p> <p>復習：30分 ノートのまとめ・調べ学習</p>
教科書・参考書	<p>教科書</p> <p>「保育所保育指針」厚生労働省</p> <p>「保育所保育指針解説」厚生労働省</p> <p>「教育実習・保育実習の手引き」</p> <p>参考書</p> <p>「新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版」同文書院 石橋裕子・林幸範 編著 2023年</p>
成績評価方法と基準	<p>評価方法</p> <p>授業への積極的な参加・実習生（社会人）としての態度、課題・書類等の内容・正確さ・提出期限の遵守、部分実習指導案と模擬実践の主體的・能動的な学修を評価する。</p> <p>評価基準</p> <p>授業参加・実習生（社会人）としての態度（30%）</p> <p>課題・書類等の内容・正確さ・提出期限の遵守（50%）</p> <p>部分実習指導案と模擬実践の主體的・能動的な学修（20%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目標、実習日誌の書き方、部分実習指導案、模擬実践等についてフィードバックを行う。</li> <li>・事後指導で個別に実習施設の評価の振り返りと実習生全体で実習報告会を行い、成果と課題の確認をする。</li> </ul>

## 2025年度 千住学部時間割

<p>オフィスアワー</p>	<p>Campus squareを参照</p>
<p>留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目授業はガイダンスを行うので、必ず出席をする。その際には、実習日誌、教育実習・保育実習の手引きを必ず購入し持参する。さらに毎回持参する。</li> <li>・無断欠席・無断遅刻・無断早退をした場合、保育実習指導 及び保育実習 を中止とする。</li> <li>・無断でない欠席を3回した場合も、保育実習指導 及び保育実習 を中止とする。</li> <li>・欠席はやむを得ない場合とし、その理由を事前連絡すると共に、欠席の証明となる物を欠席日を含めて5日以内に提出する。</li> <li>・教育実習・保育実習の手引きに「実習が許可されない場合」の条件が記載されているので、必ず確認しておく。</li> <li>・保育士の資格認定の必修科目であり、保育実習 か のどちらかを履修する必要がある。</li> <li>・この科目は「保育実習 」と連動しており、評価は本年度後期とする。</li> </ul>
<p>非対面授業となった場合の「 授業の進め方 」および「 成績評価方法と基準 」</p>	<p>授業の進め方 Zoomで授業を行い、オンラインで課題を提出する。</p> <p>成績評価方法と基準 評価基準は変更せず、オンラインで課題の評価・フィードバックを行う。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育実習
授業コード	BM303
英語名称	Childcare Training 3
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	渡辺 令子, 小林 咲里亜, 林 直美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>保育実習 で学んだ保育士としての職務や役割への理解、保育内容・援助技術をより深く理解するため、再び児童福祉施設等において10日間80時間以上の実習を行う。児童福祉施設等において利用児・者の活動の様子、指導者の援助の仕方などの観察をすることからはじめ、一日の流れと環境を把握する。後半は参加・責任実習として自らも活動を立案・実践し、障がい児・者、児童養護、地域子育て支援、職業道德・倫理についても学びを深める。</p> <p>幼児保育学科のディプロマ・ポリシーに掲げる、卒業後の職業生活上に必要な汎用的技能を獲得するための科目である。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>本学教員の渡辺（障害児通園施設・地域子育て支援担当・相談援助窓口等の実務経験元公務員保育士）が担当間及び施設と連携を取りながら、学科全体で巡回訪問指導を行う。</p>
到達目標	<p>幼児保育学科のカリキュラム・ポリシーに掲げる、6「学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目（保育・教育実践に関する科目）」の目標に達するために、以下の目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士として必要な知識・能力・技術を実践で身につける（調べる、学ぶ、自らも試みる）。</li> <li>・児童福祉施設等におけるニーズを理解し専門職としての判断力を高める。</li> <li>・児童福祉施設等における組織の運営や組織内外との連携などの学びを深める。</li> </ul>
計画・内容	<p>児童福祉施設等における実習の目的や意義を理解し、保育士の役割と職務のあり方を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育実習指導」事前指導を受講、必要書類を作成・提出し、実習施設のオリエンテーションと巡回教員事前指導を受ける。</li> <li>2. 実習課題・細菌検査等の結果などの必要書類を持参し、実習を児童福祉施設等で行う。</li> <li>3. 実習施設にて、一日の流れを理解し、職員と利用児・者のかかわり、日常生活のための支援方法や技術を観察する。職員間のチームワークや勤務についてなどを学び、生活介助等支援の一部を自らも試みる。さらに、部分実習等においては、実習施設の利用目的に合わせて、計画・実施・振り返りをする。</li> <li>4. 実習の目標に合わせた日々の目標を実行し、自己評価と今後の課題を実習日誌にて振り返る。</li> <li>5. 実習日誌には利用児・者の状況及び指導者の支援方法等の観察し、自ら実行したことを具体的に記述し、利用児・者の理解や支援のあり方を考察し深める。</li> <li>6. 巡回指導教員との実習前・中・後の報告・連絡・相談をしっかりと実行する。特にやむを得ない理由での欠席、交通機関の遅延等に関する連絡においては、実習生であり社会人としての態度が取れるようにする。巡回訪問においては実習の状況や質問など積極的な姿勢で指導を受ける。</li> <li>7. 実習日誌は毎日提出し、指導者の評価をいただく。指導いただいたことを翌日の実習に活かしていく。</li> <li>8. 実習終了後、実習日誌に全体の振り返りを記載し、速やかに施設に提出する。さらに、感謝の意を込めてお礼状を書き、実習施設へ送る。</li> </ol>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	実習巡回指導は担当教員を中心に、外部講師および学科教員の協力を得て、各施設に訪問し個別指導を行う。
授業の進め方	実習施設にて保育実習を実施する。 その際、実習先の指導者および巡回指導教員の指導に従う。
能動的な学びの実施	主体的・能動的な態度で実習を行い、利用児・者の状況をよく観察し関わり合う中で、時系列・エピソードについて実習日誌に具体的に記載し、考察する。それらを通して、施設と保育者（支援者）の役割、利用児・者の状況を深く理解することが望ましい。
授業時間外の学修	各種の施設(児童福祉施設等)で実習する。 予習：前日の実習の振り返りから翌日の課題を明確にする(20分) 復習：実習日誌の記録を作成する(40分)
教科書・参考書	教育実習・保育実習の手引き 配付資料
成績評価方法と基準	成績評価方法と基準  <実習施設の評価> ・ 本学指定の実習評価表により実習施設において評価 ・ 5項目の5段階評価と総合評価の5段階評価と総合所見（80%）  <大学の評価> ・ 実習日誌の提出状況、内容の記載状況（20%）
課題等に対するフィードバック	事後指導において、実習施設からの評価、実習日誌から、自分自身の実習の状況を確認し振り返りをする。さらに、実習報告会を通して、自分自身の学びの成果を発表するとともに、他の学生の発表からも学びを深めていく。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	保育士の資格認定の必修科目であり、保育実習 かのどちらかを履修する必要がある。この科目は「保育実習指導」履修と連動しており、本年度後期にて事後指導を終えた後、評価は後期とする。 また、実習中、無断欠席・無断遅刻・無断早退をした場合は、実習を中止する。やむを得ない理由による欠席・遅刻・早退が生じる場合は、必ず 実習先、巡回指導教員 実習担当渡辺に事前に連絡する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	実習施設から施設内の感染症等や本人の感染症等の事由により、実習の日程、若しくは実習施設を変更し、合計80時間以上の実地における実習を行うこととする。  成績評価方法と基準  <実習施設の評価> ・ 本学指定の実習評価表により実習施設において評価 ・ 5項目の5段階評価と総合評価の5段階評価と総合所見（80%）  <大学の評価> ・ 実習日誌の提出状況、内容の記載状況（20%）

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	幼稚園教育実習指導
授業コード	BM30A
英語名称	Guidance for Teaching Practice (Kindergarden)
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	安部 久美, 奥平 かおり, 宮木 弘子, 日色 智絵, 渡部 晃子, 田口 直子, 角田 幹子, 高橋 由佳, 高瀬 真由美
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育実習の目的や意義を学び、貴重な実習の機会を有意義に過ごすことができるように、実習生に必要な学習態度や資質を身につけ、保育者としての専門性を深める。</li> <li>・幼児保育学科のディプロマポリシーに掲げる保育者としての実践的な活動を支える専門的知識や技能を獲得する。</li> </ul>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭としての勤務経験者(安部)及び教育現場での実務経験のある教員(田口・渡部)、幼稚園勤務経験のある外部講師が、幼児理解、環境の構成等について教授するとともに、実習に臨む姿勢、実習日誌の書き方、実習指導案の立て方、教材研究等を指導する。</li> </ul>
到達目標	<p>【科目特有の知識・技能についての到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児を取り巻く社会の変化をとらえ、新たな課題に創造的に取り組むことができる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学びを習得する。</li> <li>・幼稚園、幼保連携型認定こども園等の社会的役割を理解する。</li> </ul> <p>【汎用能力としての学士力についての到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見をもって、他者とのコミュニケーションをとる能力を身につける。</li> <li>・幼稚園教諭に求められる資質・能力を知り、実習生として必要な態度や能力を身につける。</li> </ul> <p>【態度・志向性についての到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職としての教育者・保育者の使命感・倫理観・規範意識を身に付け、子ども・保護者・地域から信頼を得られる実践力を身につける。</li> </ul>
計画・内容	<p>各回とも担当教員全員が担当する。なお、担当の教員は、幼稚園教諭としての勤務経験者(安部)及び教育現場での実務経験のある教員(田口・渡部)である。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 実習目標の作成、幼稚園・幼保連携型認定こども園についての理解  第3回 実習日誌の書き方 時系列  第4回 環境構成についての理解(外部講師による講義)  第5回 実習日誌の書き方 エピソード記録  第6回 実習指導案の書き方 環境における保育  第7回 実習指導案の書き方 一斉保育  第8回 実習指導案の書き方 一斉保育  第9回 模擬保育 (外部講師による講義)  第10回 模擬保育 (外部講師による講義)  第11回 模擬保育 (外部講師による講義)  第12回 実習直前指導  第13回 事後指導 実習における自己課題と改善のための取り組み  第14回 事後指導 評価表に基づいたフィードバック  第15回 事後指導 教育実習 (幼)に向けての課題の明確化と実習体験の深化</p>

## 2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	・基本的には講義形式で行うが、実習書類、実習日誌、実習指導案の作成、模擬保育は演習で行う。
能動的な学びの実施	・実習日誌、実習指導案などを実際に書きながら、質疑応答を行い、記録することの意味、計画、実践、評価することの重要性を学ぶ。
授業時間外の学修	・授業時間外学習(合計60時間程度)。 ・各回ごとに指示された予習、復習を行う。指示の無い回の予習では、実習日誌、実習指導案作成に関する本や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおく。指示の無い回の復習では、配布資料や授業中に書き留めたメモをまとめ、実習の準備に役立てる。 ・実習の目標、実習指導案作成、教材研究、教材準備、模擬保育の振り返り等を課題として課す。
教科書・参考書	「幼稚園教育要領<平成29年度告知>」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年度告知>」 「教育実習・保育実習の手引き」 実習日誌（教育実習用）
成績評価方法と基準	授業参加(20%) 課題・書類等の提出期限の順守、提出の有無、内容(80%)
課題等に対するフィードバック	・実習の目標、実習指導案等については一定基準を満たすまで、教員から指導を受ける。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・「教育実習・保育実習の手引き」、実習日誌を必ず購入する。 ・無断欠席、無断遅刻、無断早退をすると実習に参加できない。 ・無断でない欠席を3回した場合も実習に参加できない。 ・「教育実習・保育実習の手引き」に、実習が許可されない場合の条件が記載されているので、必ず確認しておく。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業、CampusSquareによる課題学修を行う。 成績評価方法と基準 ・評価基準は変更せず、オンライン課題の評価・フィードバックを行う。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	教育実習（幼）
授業コード	BM30B
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	安部 久美, 渡部 晃子, 田口 直子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	幼稚園一種免許状取得のために必要な科目である。実際の現場にて幼稚園教諭の在り方を学び、幼稚園教諭としての基礎を培う。具体的には、幼稚園の機能、幼稚園の一日の流れや教育課程・指導計画、幼稚園教諭の職務内容や基本的な役割、職業倫理、幼児の発達や生活などを体験的に学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	幼稚園勤務経験のある外部講師と本学教員による実務経験を活かした指導ののちに、実習先の現職の幼稚園教諭等から指導を受ける。
到達目標	事前指導や既習の教科の学びを基に、保育に関する実践的な知識と技術を獲得するため、幼稚園の機能、幼稚園の一日の流れや教育課程・指導計画、幼稚園教諭の職務内容や基本的な役割、職業倫理、幼児の発達や生活などを体験的に学ぶ。
計画・内容	幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園において、10日間以上、80時間以上の教育実習を行う。原則として、観察実習、参加実習であるが、適宜、部分実習を行う。実習の目標を踏まえ、下記を実習の内容とする。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼稚園の役割、幼稚園教諭の専門性、職務内容を理解する。</li> <li>2 実習生に必要な学習態度や姿勢を理解し、身に付ける。</li> <li>3 幼稚園の教育過程、教育方針、教育内容について学ぶ。</li> <li>4 年齢に応じた幼児の行動を知るとともに、その心情について理解する。</li> <li>5 幼児の主体的な活動を引き出すための環境の構成や援助について学ぶ。</li> <li>6 実習日誌を書くことにより、日々の実習の評価、反省を行うとともに、幼児の行動や保育者の援助の分析、考察を深める。</li> </ol>
授業の進め方	幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園にて実習を行う。
能動的な学びの実施	幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園に身を置き、園の役割、幼稚園教諭の職務、幼児の生活と保育者の関わりへの理解を深める。また、実際に幼児と関わり、部分的な指導実習を行うなど、幼稚園教諭として必要な資質能力を高める。
授業時間外の学修	毎日の実習終了後に実習の振り返り、日誌の作成、翌日の学習課題の設定、教材準備などを行う。
教科書・参考書	「教育実習・保育実習の手引き」 「幼稚園教育要領<平成29年告知>」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告知>」
成績評価方法と基準	実習園の評価(80%)、実習日誌の提出状況、内容(20%)により評価する。実習生の責任において実習を完了しなかった場合、実習園の評価が著しく低く十分な学習が認められない場合は、単位が付与されない。
課題等に対するフィードバック	実習の事後指導において振り返りを行う。

## 2025年度 千住学部時間割

オフィスアワー	Campusquareを参照
留意事項	特別な事情でやむを得ず欠席・遅刻・早退となる場合は、実習生は事前に実習園の責任者および授業担当教員、巡回指導担当教員に連絡をする。実習生の責任において、無断で実習先オリエンテーションおよび実習を欠席・遅刻・早退した場合、実習を中止する。そのほか、実習の手引きに記載されている事項を理解し実習に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	時期ないし、実習施設を変更し、合計80時間以上の実施における実習を行う。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	教育実習（幼）
授業コード	BM406
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	田口 直子, 安部 久美, 渡部 晃子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<p>幼稚園一種免許状取得のために必要な科目である。 実際の現場にて幼稚園教諭としての学びを深める。 具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭の職務内容、職業倫理、幼児の発達や生活などを主体的・体験的に学ぶ。</li> <li>・幼稚園の教育課程・指導計画に基づいた指導案を立案し責任実習を行う。</li> </ul> <p>幼児保育学科のディプロマポリシーに示されている、観察・理解力を身に付けること、乳幼児の発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善を行うこと、他者への共感性や思いやり、コミュニケーション力を身に付けることを目指す。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	幼稚園教諭としての勤務経験者（安部）及び教育現場での実務経験のある教員(田口・渡部)による事前指導を受けたのち、現場での実践を通じた学習を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼稚園の役割、幼稚園教諭の専門性、職務内容をより深く理解する。</li> <li>2 部分実習、責任実習を通して保育技術を身に付ける。</li> <li>3 幼児の発達を踏まえて、個人差に対応した援助の仕方を学ぶ。</li> <li>4 指導計画を立案して保育を実践し、実践後には保育を振り返る態度を身に付ける。</li> <li>5 幼児の主体的な活動を引き出すための環境の構成や、ふさわしい援助について理解する。</li> <li>6 将来、目標とする幼稚園教諭の姿を具体化し、自己の課題を明確にする。</li> </ol>
計画・内容	<p>幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園において、10日間以上、80時間以上の実習を行う。原則として観察実習、参加実習、部分実習を通して、保育者の補助を行ったり、子どもと直接かかわったりしながら保育の実践法を学習する。また、園の方針や子どもの様子を学び、保育士の指導を受けながら指導案を立案して、責任実習を行うことで保育実践を試みる。</p> <p>ただし、具体的な内容については実習園の指導に従う。</p>
授業の進め方	<p>幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園にて実習を行う。 学科教員は学生サポートと巡回訪問を行う。</p>
能動的な学びの実施	幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園において幼児と主体的・能動的に関わり、参加実習・責任実習部分的な指導実習を行う。
授業時間外の学修	<p>授業外学習（合計60時間程度）</p> <p>予習：前日の実習の振り返りから、次の実習での課題を明確にする。 子どもたちの年齢や発達にあった実習指導案を作成する。</p> <p>復習：実習日誌の記録を作成する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

教科書・参考書	教育実習・保育実習の手引き
成績評価方法と基準	実習園の評価（80%） 実習日誌の内容等（20%）
課題等に対するフィードバック	事後指導において振り返り(フィードバック)を行う。
オフィスアワー	CampusSquare参照
留意事項	実習を無断で欠席したり遅刻したり早退したりした場合は、実習を中止する。やむを得ず欠席したり遅刻したり早退したりする場合は、必ず実習先、大学、巡回指導教員に事前に連絡する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	時期ないし、実習施設を変更し、合計80時間以上の実地における実習を行う。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	幼児と表現 (U1組)
授業コード	BM158A
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	飯泉 祐美子, 今西 ひとみ, 松井 晴美, 渡部 晃子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	幼児の表現について、領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質について理解し、音楽的表現、身体的表現、造形的表現、それぞれの表現の手法および、総合的な幼児の表現の基礎を学ぶ。 音楽的表現では弾き歌いの導入を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教育現場での実践については、飯泉祐美子（元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション）、渡部晃子（元公立中学校講師）、今西ひとみ（元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校教諭）がそれぞれの現場での事例を紹介し、進める。
到達目標	カリキュラムポリシーの「各領域に関する基礎的な知識、及び環境を通じた総合的な指導法について学ぶ科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）」の達成のために、以下の目標を設定する。 1）様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2）身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 3）表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4）協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 5）さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。  この科目は幼稚園教諭一種免許状及び、保育士資格取得のための必須科目である。
計画・内容	第1回「表現」のねらい及び内容の理解（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井） 弾き歌い「ひげじいさん」「ぶんぶんぶん」（飯泉） 第2回「表現」のねらい及び内容の理解（担当：今西、元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校教諭） 弾き歌い提出期間「ひげじいさん」「ぶんぶんぶん」（飯泉） 第3回多感覚性を生かした表現・イメージの表現 音楽的な表現の側面から（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井） 弾き歌い「かえるのがっしょう」「ちょうちょう」（飯泉） 第4回多感覚性を生かした表現・イメージの表現 身体表現の側面から（担当：今西、元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校教諭）（担当：今西、元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校教諭） 弾き歌い提出期間「かえるのがっしょう」「ちょうちょう」（飯泉） 第5回他者との対話・文化との対話による表現 音楽的な表現の側面から（（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井） 弾き歌い「ぞうさん」（飯泉） 第6回「表現」のねらい及び内容の理解（担当：渡部、元公立中学校講師） 弾き歌い提出期間「ぞうさん」（飯泉）

## 2025年度 千住学部時間割

<p>計画・内容</p>	<p>第7回表現演習 音楽的表現創作（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭、元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井）          弾き歌い「おはながわらった」「かたつむり」（飯泉）          第8回多感覚性を生かした表現・イメージの表現 造形表現の側面から（担当：渡部、元公立中学校講師）          弾き歌い提出期間「おはながわらった」「かたつむり」（飯泉）          第9回他者との対話・文化との対話による表現 造形表現の側面から（担当：渡部、元公立中学校講師）          第10回表現演習のまとめ 創作発表豊かな表現のために幼児の表現の発達の理解のまとめ 音楽的な表現の側面から（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭、元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井）          弾き歌い「もりのくまさん」          第11回他者との対話・文化との対話による表現 身体表現の側面から（担当：今西、元ナーサリアカデミー、元日本語補習授業校教諭）          弾き歌い提出期間「もりのくまさん」（飯泉）          第12回表現演習 造形的表現創作（担当：渡部、元公立中学校講師）          第13回表現演習 身体的表現創作（担当：今西、元ナーサリアカデミー、元日本語補習授業校教諭）          弾き歌い「試験課題」（飯泉）          第14回表現演習のまとめ 創作発表豊かな表現のために幼児の表現の発達の理解のまとめ 造形表現の側面から（担当：渡部、元公立中学校講師）          弾き歌いのまとめ（飯泉）          第15回表現演習のまとめ 創作発表豊かな表現のために幼児の表現の発達の理解のまとめ 身体表現の側面から（（担当：今西、元ナーサリアカデミー、元日本語補習授業校教諭）          弾き歌い「チューリップ」「とんでったバナナ」</p>
<p>授業の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野ごとに進めるする。</li> <li>・授業担当者によって用具が異なるためしっかりと把握して授業に臨むこと。</li> </ul>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>「音楽的な表現活動」「身体的な表現活動」「造形的な表現活動」に主体的に取り組み、成果発表を適宜実施したり、成果物を製作する。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に予め当日の内容を把握する事。また、分野ごとに実施するためしっかり切り替えられるような事前学習をすること。（各回2時間程度）</li> <li>・授業後は次時に続きの内容とならないことがあるのでしっかりと確認復習をすること。（各回2時間程度）</li> <li>・弾き歌い個人練習（まとまった時間も必要だが、短時間でもできる限り毎日弾く習慣が大切である）</li> </ul>
<p>教科書・参考書</p>	<p>テキスト及び参考書（授業内で購入方法を指示します）          「こどものうた 85～やさしい伴奏から素敵な伴奏まで～1学期編」共同音楽出版社</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現、身体的表現、造形的表現の3分野それぞれを100点満点合計300点満点とし、最終評定はそれを3で割った数とする。</li> <li>各分野では、成果点90%+平常点10%（出席およびまとめの授業の参加態度を含む）の100%で採点する。</li> <li>・この授業は分野ごと5回ずつ分野ごとに展開するため、同一担当者の授業の欠席は2回まで認めるが（ただし全体では5回まで）同一担当者の授業を3回以上欠席した場合、その分野の評価は不可となるので、十分に注意すること。あくまでも3分野をまんべんなく学習することでこの科目の単位付与は行われる。</li> <li>・弾き歌いの課題の提出物の成果は実技試験として扱う。</li> </ul>

## 2025年度 千住学部時間割

成績評価方法と基準	・音楽的表現のみ、試験期間に対面による弾き歌い実技試験を実施する。
課題等に対するフィードバック	・学生の表現の成果はその都度、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して幼児と表現（保育士必修）を履修することが望ましい</li> <li>・本科目は幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格の必須科目である。保育を学ぶ上でも必要である内容である。</li> <li>・弾き歌いの課題はその特性から獲得した技術の維持と学習の継続の継続のため、プリントおよびcampus squareにて学習課題が示される。その取り組みは授業課題であるので評価の対象である。</li> <li>・弾き歌いの課題の提出物の成果は実技試験として扱うため、不正な行為発覚の場合は試験における不正行為同等の扱いとなる。</li> </ul>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業動画配信によるオンデマンド授業と課題学習を組み合わせる。</p> <p>各分野とも授業課題で評価する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	幼児と表現 (U1組)
授業コード	BM226A
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	飯泉 祐美子, 小林 咲里亜, 松井 晴美, 渡部 晃子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	幼児と表現 に引き続き、音楽的表現、身体的表現、造形的表現の三分野に細分化し、毎時テーマに沿った表現活動を実践し、手法を学ぶ。 弾き歌いも適宜行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教育現場での実践については、飯泉祐美子(元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション),渡部晃子(元公立中学校講師),今西ひとみ(元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校教諭)がそれぞれの現場での事例を紹介し、進める。
到達目標	カリキュラムポリシーの「各領域に関する基礎的な知識、及び環境を通じた総合的な指導法について学ぶ科目(領域及び保育内容の指導法に関する科目)」の達成のために、以下の目標を設定する。 以下の目標を設定する。 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 5) さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる
計画・内容	第1回:「表現」あそびについて 音楽的表現の側面から (担当:飯泉,元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井) 弾き歌い「こいのぼり」(飯泉) 第2回:環境の表現 音楽的表現の側面から (担当:飯泉,元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井) 弾き歌い「シャボン玉」(飯泉) 第3回:イメージの表現 音楽的表現の側面から (担当:飯泉,元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井) 弾き歌い「おかあさん」(飯泉) 第4回:総合表現演習 音楽的表現・ムーブメント表現・舞台表現 担当:飯泉,元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井) 弾き歌い「あめふりくまのこ」(飯泉) 第5回:総合表現演習・幼児と表現のまとめ 音楽的表現創作発表 (担当:飯泉,元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション、松井) 弾き歌い「おとうさん」(飯泉) 第6回:「表現」あそびについて 身体的表現の側面から (担当:飯泉) 第7回:環境の表現 身体的表現の側面から (担当:飯泉) 弾き歌い「たなばたさま」(飯泉)

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第8回：イメージの表現 身体的表現の側面から（担当：飯泉）</p> <p>第9回：総合表現演習 身体的表現（担当：飯泉） 弾き歌い「アイアイ」（飯泉）</p> <p>第10回：総合表現演習・幼児と表現のまとめ 身体的表現創作発表（担当：飯泉）</p> <p>第11回：「表現」あそびについて 造形的表現の側面から（担当：渡部，元公立中学校講師） 弾き歌い「ありさんのおはなし」（飯泉）</p> <p>第12回：環境の表現 造形的表現の側面から（担当：渡部，元公立中学校講師）</p> <p>第13回：イメージの表現 造形的表現の側面から（担当：渡部，元公立中学校講師） 弾き歌い「試験課題」（飯泉）</p> <p>第14回：総合表現演習 造形的表現の側面から（担当：渡部，元公立中学校講師） 弾き歌いのまとめ（飯泉）</p> <p>第15回：総合表現演習・幼児と表現のまとめ 造形的表現の鑑賞（担当：渡部，元公立中学校講師）</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現、身体的表現、造形的表現の分野ごとに担当する。</li> <li>・授業担当者によって授業内容が異なるためしっかりと把握して授業に臨むこと。</li> <li>・授業は演習で進める。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「音楽的な表現活動」「身体的な表現活動」「造形的な表現活動」に主体的に取り組む内容であり積極的に実践する。</li> <li>・アクティブラーニング、グループワークを取り入れ、演習を行う。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野ごとに・実施するため前時ではない回からの続きということがあるのでしっかりと切り替えられるような事前学習をすること。（各回2時間程度）</li> <li>・授業後は次時に続きの内容とならないことがあるのでしっかりと確認復習をすること。（各回2時間程度）</li> <li>・弾き歌い個人練習（まとまった時間も必要だが、短時間でもできる限り毎日弾く習慣が大切である）</li> </ul>
教科書・参考書	<p>「こどものうた85～やさしい伴奏から素敵な伴奏まで～1学期編」共同音楽出版社</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的表現、身体的表現、造形的表現の3分野それぞれを100点満点合計300点満点とし、最終評価はそれを3で割った数とする。</li> <li>各分野では、実技点＋提出物の100%で採点する。</li> <li>・分野ごと5回ずつ分野ごとに展開するため、同一担当者の授業の欠席は2回まで認めるが（ただし全体では5回まで）同一担当者の授業を3回以上欠席した場合、その分野の評価は不可となるので、十分に注意すること。あくまでも3分野をまんべんなく学習することでこの科目の単位付与は行われる。</li> <li>・弾き歌いの課題の提出物の成果は実技試験として扱う。</li> </ul>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の表現の成果などは適宜コメントや講評を行う。</li> </ul>
オフィスアワー	<p>CampusSquare を参照</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として幼児と表現 を履修済みである。</li> <li>・本科目は幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得（必修）のための科目である。保育を学ぶ上でも必要である内容である。</li> <li>・三つの表現の分野を五回ずつ学ぶ内容であるため、三つの分野をまんべんなく学習する必要がある。全体の出席時数を満たしていても、分野ごとの出欠の三分の二以上の出席を満たさないとならない。</li> <li>・弾き歌いの課題はその特性から獲得した技術の維持と学習の継続の継続のため、プリントおよびcampus squareにて学習課題が示される。その取り組みは授業課題であるので評価の対象である。</li> <li>・弾き歌いの課題の提出物の成果は実技試験として扱うため、不正な行為発覚の場合は試験における不正行為同等の扱いとなる。</li> </ul>

## 2025年度 千住学部時間割

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業動画配信によるオンデマンド授業と課題学習を組み合わせる。その際に担当教員の授業の実施順序が変わる可能性があるため指示に注意すること。 各分野とも授業課題で評価する。
------------------------------------	---

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	幼児と言葉（U1組）
授業コード	BM228A
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	三石 美鶴
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	言葉の意義や機能について理解し、言葉を育む保育者として豊かな言語感覚や言語能力の必要性を認識する。その上で、保育所保育指針領域「言葉」のねらいや内容を理解し、それらを達成する保育者の役割やかかわり方について考える。また、乳幼児の言葉の発達過程を理解し、発達段階に応じた言語活動や保育者の果たすべき役割を理解する。最終的には小学校との接続を見据え、総則に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の主に(8)(9)の育成を目指すことを把握する。さらに、絵本や紙芝居等児童文化財の意義を理解し、それらを取り入れた保育指導案を作成して模擬保育を行う等、実践力を育成する。その際、特別な支援を必要とする子ども等への配慮についても意識し、人権感覚を身に付ける。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小学校教員として長く教育現場で勤務してきた経験と国語の実践研究の実績を活かし、就学前の子供の言葉を育む保育者の育成を行う。また、幼保小の連携についても実体験を生かした指導を行う。
到達目標	カリキュラムポリシーにおける領域及び保育内容の指導法に関する科目として、言葉の領域に関する言語学、日本語学等の基礎的な内容を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間にとって言葉の意義や機能について理解し、保育者として適切な言語感覚やコミュニケーション等の言語能力を身に付ける。</li> <li>・領域「言葉」のねらいや内容と、その達成に向けた保育者の役割を理解する。</li> <li>・乳幼児期の言葉の発達過程を理解するとともに、それぞれの発達段階に適切に対応し、言葉を育む保育者の在り方を習得する。</li> <li>・乳幼児にとっての児童文化財（絵本・紙芝居等）の意義を理解し、実践力を身に付ける。</li> </ul>
計画・内容	第1回：オリエンテーション 相手に応じた自己紹介の仕方を理解する 第2回：言葉の機能と仕組みについて理解する 第3回：領域「言葉」を中心に保育所保育指針等の改正点と領域「言葉」の目的・内容について理解する 第4回：言葉を育む乳児保育について理解する 第5回：言葉を育む1歳以上3歳未満児の保育について理解する 第6回：言葉を育む3歳以上児の保育について理解する 第7回：乳幼児の言語発達について理解する 第8回：言葉が育つ条件と言葉を育むための保育者の援助について考える

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第9回：児童文化財の絵本と絵本の読み聞かせについて理解する</p> <p>第10回：言葉を育む児童文化財「絵本」の教材研究をビブリオバトルの手法を用いて行う</p> <p>第11回：保育指導案の作成の仕方を理解する</p> <p>第12回：ビブリオバトルで選んだ絵本の読み聞かせと言葉遊びを盛り込んだ保育指導案を作成する</p> <p>第13回：絵本の読み聞かせの仕方を理解し、保育指導案をもとに模擬授業を行う。</p> <p>第14回：言葉を育む上で幼保小の連携について考える</p> <p>第15回：本学修の振り返りと学修のまとめ（理解度の確認）</p>
授業の進め方	<p>授業の前半はパワーポイントを用いて講義を行い、後半は課題を提示し、個別やグループで学修する形態とする。毎時間、課題の学修結果を提出する。グループでの協議も適時行う。</p> <p>後半からビブリオバトルや保育指導案の作成、模擬授業等実践的な活動を取り入れる。</p> <p>動画資料や新聞記事を適宜活用する。</p>
能動的な学びの実施	<p>アクティブラーニングの実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について個別学修を行った後、グループでの協議を取り入れる。</li> <li>・ビブリオバトルや保育指導案の作成、模擬授業等実践的な活動を通り入れ、その成果を交流し、相互評価する。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習は主に授業予定の範囲の教科書を読み込むとともに、前時に示された課題について調べるなどの学修を行うこと。（1時間程度）</li> <li>・復習は学修した内容を再度確認し、習得できるようにすること。（1時間程度）</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：「保育所保育指針開設」厚生労働省 フレーベル館 適時資料を配布</p> <p>参考書：塩美佐枝『保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助』ミネルヴァ書房 秋田喜代美、砂上史子編『子どもの姿からはじめる領域・言葉』みらい</p>
成績評価方法と基準	<p>定期試験 50%</p> <p>授業への参加態度（積極性） 20%</p> <p>課題・レポート等 30%</p>
課題等に対するフィードバック	<p>・毎時間の学修後に授業の振り返りを記入して提出する。それについては全てコメントを加え、次の授業にて返却するので、それを活用して学修課題や学修への取組についてフィードバックすること。</p>
オフィスアワー	CAMPUSSQUAREを参照のこと
留意事項	幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目であるため、必ず履修すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン（オンデマンド課題）学修 15回に切り替える。</p> <p>Campus Squareの掲示板またはレポート提出欄に課題・動画URL等を提示し、レポート提出欄から課題を提出する形式をとる。</p> <p>毎時間の課題 50% 期末のレポート 50%で評価する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	幼児と環境（U1組）
授業コード	BM230A
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	木場 有紀, 渡辺 令子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	環境を、人的・物的・社会的環境といった多様なものとして捉え、保育室内の設え等、自ら適切な環境を創り出し、また園外および社会的環境をも活用できる保育者となるための論理的実践的知識の習得を目指す。さらに、幼児が好奇心および探求心をもって積極的にかかわることができるような環境の構成や、幼児が探求を深めていくことができる指導の方法を教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	渡辺は元公務員保育士であり、乳幼児の保育現場での保育者及び保育行政における専門職としての知識・経験を生かし、理論と経験を融合した授業を展開する。具体的事例を通して、乳幼児期に発達とふさわしい環境、環境の構成の実際などについて教授する。
到達目標	<p>幼児を取り巻く環境の諸側面を現代的視点から捉え、幼児と人的環境、物的環境との関わりについて専門的事項における感性を養うとともに、基礎的知識・技能を身につける。</p> <p>幼児が環境とどのように出会い、その関わりの中でどのような経験をしているのかを捉えるとともに、環境構成を行う実践力を身に付ける。</p> <p>以上2点を目標とする。</p> <p>ディプロマポリシーに掲げる「6．保育学や幼児教育の学びを通して、子どもたちの可塑性に富んだ活動に対応できる専門的な知識や技能をもち、未来を担う子どもたちに伝えるべき新たな教育・保育方法を考案することができる。」につながる科目であり、また、カリキュラムポリシーの「5．各領域に関する基礎的な知識、及び環境を通じた総合的な指導法について学ぶ科目。（領域及び保育内容の指導法に関する科目）」に相当する。</p>
計画・内容	<p>第1回 現代社会の幼児を取り巻く環境と子どもの育ち—物的、人的、時間、安全環境、知識基盤社会、ESDなど（渡辺）</p> <p>第2回 保育内容「環境」の意義（渡辺）</p> <p>第3回 保育内容「環境」と幼児理解 —発達の理論を踏まえた幼児理解と環境との関係（渡辺）</p> <p>第4回 保育内容「環境」と幼児理解 —乳幼児期の認知的発達の特徴を環境構成にどのように活かすか（渡辺）</p> <p>第5回 人的環境としての友達、保育者（木場）</p> <p>第6回 物的環境としての園具、遊具、素材（木場）</p> <p>第7回 幼児の数量や図形との関わり —幼児期の数量や図形との関わりと具体的な活動（生活や遊びを通して）（木場）</p> <p>第8回 幼児の数量な図形との関わり —幼小の接続を踏まえて数量や図形等への関心・感覚を培う（木場）</p> <p>第9回 乳幼児の生き物との関わりと具体的な活動—園庭の生き物や昆虫、飼育小動物との関わりを通して得られる経験、具体的な飼育方法（木場）</p> <p>第10回 乳幼児の植物との関わりと具体的な活動—栽培を通して得られる経験、具体的な栽培方法、園庭の自然環境を通して得られる経験—（木場）</p> <p>第11回 乳幼児の自然事象との関わりと具体的な活動 - 四季を通じた自然との関わりと具体的経験—（木場）</p> <p>第12回 幼児の標識や文字との関わり—幼児期の標識や文字との関わりと具体的な活動（生活や遊び・幼</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>小の接続) (渡辺)</p> <p>第13回 乳幼児の情報・施設との関わりー乳幼児の生活に関心の深い情報・施設とそれらに関わる具体的な活動ー (渡辺)</p> <p>第14回 これまでの学びを活かして遊びを豊かにする環境を作ってみよう - 幼児が遊びを豊かに創造していくためにー (渡辺)</p> <p>第15回 まとめ: 幼児を取り巻く環境を多角的に見てみよう (渡辺・木場)</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料、パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料など適宜活用する。</li> <li>・講義、演習を織り交ぜて行う。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション、グループワークなどを行いながら各学生が積極的に考えを述べあったり、共に課題を解決したりする。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料や講義ノートと関連付けて、レポートを作成する。(各回1時間程度)</li> <li>・授業前に次回のテーマについて調べておく。(各回30分程度)</li> </ul>
教科書・参考書	<p>「幼稚園教育要領解説」文部科学省</p> <p>「保育所保育指針解説」厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験(70%) レポート(20%) 授業態度(10%)</li> </ul>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出された課題、レポートについては添削、コメントを記入して戻す。</li> </ul>
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CampusSquare参照</li> </ul>
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>Zoomによるオンライン授業、または、CampusSquareによる課題学修</p> <p>試験(70%) レポート(20%) 授業態度(10%)</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育内容（表現）（U1組）
授業コード	BM276A
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	飯泉 祐美子, 今西 ひとみ, 渡部 晃子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現」について音楽的表現、身体的表現、造形的表現の三分野に細分化し毎時保育の表現の指導法についてテーマに沿った表現活動の指導法を、ITCを活用し協働学習のスタイルで学ぶ。</li> <li>・指導案作成や模擬保育を行う</li> </ul>
科目に関連する実務経験と授業への活用	教育現場での実践については、飯泉祐美子（元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション）、渡部晃子（元公立中学校講師）、今西ひとみ（元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校教諭）がそれぞれの現場での事例を紹介し、講義を進める。
到達目標	<p>カリキュラムポリシーの「教育及び保育の課題を積極的に創出する意欲と実践的指導力の修得を支援する。」の達成のために、以下の目標を設定する。</p> <p>(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>(1)-2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>(1)-3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>(1)-4) 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)-1) 幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育構想の重要性を理解している。</p> <p>(2)-2) 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>(2)-3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>(2)-4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>(2)-5) 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>
計画・内容	<p>第1回：幼児教育の基本及び「造形的表現」のねらいについて・幼児期の表現活動と「幼児期の終わりにまで育てほしい姿」と幼児の表現における評価の考え方 幼児期の表現活動と小学校の教科図工の学びの連続性について（担当：渡部、元公立中学校講師）</p> <p>弾き歌い・・・あさのうた おはようのうた おべんとう（飯泉）</p> <p>第2回：幼児期の表現の発達と表現活動において育みたい資質や能力 造形的表現教材の提示方法 （担当：渡部、元公立中学校講師）</p> <p>弾き歌い・・・あさのうた おはようのうた おべんとう（飯泉）</p> <p>第3回：インクルーシブ保育における造形的表現あそびの可能性・ICTの活用の保育構想のアイデア 造形的視点から （担当：渡部、元公立中学校講師）</p> <p>弾き歌い・・・あさのうた おはようのうた おべんとう（飯泉）</p> <p>第4回：保育実践による保育構想・模擬保育の構想と造形的表現に関する指導案作成（担当：渡部、元公立中学校講師）</p> <p>弾き歌い・・・あさのうた おはようのうた おべんとう（飯泉）</p> <p>第5回：模擬保育（担当：渡部、元公立中学校講師）</p>

## 2025年度 千住学部時間割

<p>計画・内容</p>	<p>弾き歌い・・・おかえりのうた さよならのうた おやつのじかん（飯泉）</p> <p>第6回：幼児教育の基本及び「身体的表現」のねらいについて・幼児期の表現活動と「幼児期の終わりにまで育てほしい姿」と幼児の表現における評価の考え方幼児期の表現活動と小学校の教科音楽の学びの連続性について（担当:今西、元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校）</p> <p>弾き歌い・・・おかえりのうた さよならのうた おやつのじかん（飯泉）</p> <p>第7回：幼児期の表現の発達と表現活動において育みたい資質や能力 身体的表現教材の提示方法（担当:今西、元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校）</p> <p>弾き歌い・・・おかえりのうた さよならのうた おやつのじかん</p> <p>第8回：インクルーシブ保育における身体表現あそびの可能性・ICTの活用の保育構想のアイデアー身体的表現の視点から（担当:今西、元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校）</p> <p>弾き歌い・・・おかえりのうた さよならのうた おやつのじかん</p> <p>第9回：保育実践による保育構想・模擬保育の構想と身体的表現に関する指導案作成（担当:今西、元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校）</p> <p>弾き歌い・・・あくしゅでこんにちは はをみがきましょう</p> <p>第10回：模擬保育（担当:今西、元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校）</p> <p>弾き歌い・・・あくしゅでこんにちは はをみがきましょう</p> <p>第11回：幼児教育の基本及び「音楽的表現」のねらいについて・幼児期の表現活動と「幼児期の終わりにまで育てほしい姿」と幼児の表現における評価の考え方幼児期の表現活動と小学校の教科音楽の学びの連続性について（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション）</p> <p>コード弾き歌い・・・手をたたきましょう ゆき 山の音楽家 コブタヌキツネコ</p> <p>第12回：幼児期の表現の発達と表現活動において育みたい資質や能力 音楽的表現教材の提示方法（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション）</p> <p>コード弾き歌い・・・手をたたきましょう ゆき 山の音楽家 コブタヌキツネコ</p> <p>第13回：インクルーシブ保育における音楽的表現あそびの可能性・ICTの活用の保育構想のアイデア 音楽的・身体的表現の視点から（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション）</p> <p>コード弾き歌い・・・手をたたきましょう ゆき 山の音楽家 コブタヌキツネコ</p> <p>第14回：保育実践による保育構想・模擬保育の構想と音楽的表現に関する指導案作成（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション）</p> <p>コード弾き歌い・・・手をたたきましょう ゆき 山の音楽家 コブタヌキツネコ</p> <p>第15回：模擬保育（担当：飯泉、元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭,元インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクション）</p>
<p>授業の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3名の教員が、主に分野ごとに担当する。</li> <li>・授業担当者によって用具が異なるためしっかりと把握して授業に臨むこと。</li> <li>・授業は適宜、講義、演習で進める。その方法は、授業回や担当者によっても適宜ふさわしいものを利用する。</li> </ul>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>「音楽的な表現活動」「身体的な表現活動」「造形的な表現活動」の主体的な取り組み、模擬保育も実践する。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に予め当日の内容を把握する事。また、3人の教員で実施するためしっかりと切り替えられるような事前学習をすること。（各回2時間程度）</li> <li>・授業後は次時に続きの内容とならないことがあるのでしっかりと確認復習をすること。（各回2時間程度）</li> </ul>
<p>教科書・参考書</p>	<p>（教科書）</p> <p>表現者を育てるための保育内容「音楽表現」教育情報出版 こどものうた 85 3学期編 共同音楽出版社</p>

## 2025年度 千住学部時間割

教科書・参考書	<p>(参考書)</p> <p>「コンパクト版保育内容シリーズ音楽表現」一藝社</p> <p>『造形表現』谷田貝公昭監修、竹井史編著、一藝社、2018年</p> <p>「幼稚園教育要領」文部科学省</p> <p>「保育所保育指針」厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 文部科学省 厚生労働省</p>
成績評価方法と基準	<p>・音楽的表現、身体的表現、造形的表現の3分野それぞれを100点満点合計300点満点とし、最終評定はそれを3で割った数とする。</p> <p>各分野では、分野内達成度90% + 平常点10% (出席およびまとめの授業の参加態度を含む)の100%で採点する。</p> <p>この授業は3人の担当で5回ずつ分野ごとに展開するため、同一担当者の授業の欠席は2回まで認めるが(ただし全体では5回まで)同一担当者の授業を3回以上欠席した場合、その分野の評価は不可となるので、十分に注意すること。あくまでも3分野をまんべんなく学習することでこの科目の単位付与は行われる。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>・学生の表現の成果はその都度、コメントを行う。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquare を参照</p>
留意事項	<p>・原則として幼児と表現、幼児と表現を履修済みである。</p> <p>・本科目は幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格の必修科目であるが、保育を学ぶ上でも必要である内容である。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業動画配信によるオンデマンド授業と課題学習を組み合わせる。</p> <p>各分野とも授業課題で評価する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育内容（言葉）(U1組)
授業コード	BM271
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	三石 美鶴
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保育所保育指針等の領域「言葉」のねらいや内容を理解し、それらを達成するための保育者の役割やかかわり方について理解する。また、乳幼児の言葉の発達過程を理解し、各発達段階に応じた言葉を育む保育の在り方や保育者の役割を考える。その際、児童文化財の種類や特性を理解し、演習を通してそれらを有効に活用する実践力を育成する。また、グループ活動や交流活動を通して協調性やコミュニケーション力、言葉を介した表現力等を身に付ける。乳幼児の最大の言語環境が保育者であることを自覚し、言葉を育む保育者としての資質能力を育成する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小学校教員として長く教育現場で勤務してきた経験と国語の実践研究の実績を活かし、就学前の子供の言葉を育む保育者の育成を行う。また、幼保小の連携についても実体験を生かした指導を行う。
到達目標	カリキュラムポリシーにおける領域及び保育内容の指導法に関する科目として、「言葉」の領域に関する指導法について理解する。 ・保育所保育指針等における「言葉」の領域のねらいや内容と保育者の役割について理解し、乳幼児の発達過程に応じ、言葉を育む保育の実践力を育成する。 ・児童文化財それぞれの特性や効用の理解及び操作や演じ方等の技能を習得し、乳幼児の発達段階に応じた保育において適切に児童文化財を活用する実践力を習得する。 ・発表や交流活動を通して表現力・コミュニケーション力を身に付け、言葉を育む保育者としての資質能力を育成する。
計画・内容	第1回：オリエンテーション、「幼児と言葉」の学修の振り返り、言葉を中心に幼児の実態を把握する  第2回：発達段階に応じて言葉を育む保育者の在り方について考える  第3回：保育所保育指針 領域「言葉」の目的・内容について復習する  第4回：児童文化財についてそれぞれの特性や効能を理解する  第5回：絵本の読み聞かせについて復習する  第6回：年齢に応じた絵本の選書の仕方や絵本の読み聞かせの仕方を理解する  第7回：幼児（3歳児）に読み聞かせたい絵本を選び、読み聞かせを実践し、交流する  第8回：ストーリーテリングの仕方を理解する  第9回：ストーリーテリングを実践し、交流する  第10回：紙芝居の作成方法や演じ方を理解する  第11回：グループでのオリジナル紙芝居創りに向け構想する

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第12回：グループでオリジナル紙芝居を作成し、発表準備を行う</p> <p>第13回：オリジナル紙芝居の演技発表を行い、交流する</p> <p>第14回：言葉遊びや文字遊びについて理解し、実践する</p> <p>第15回：学習の振り返りと学修のまとめ</p>
授業の進め方	<p>授業の前半はパワーポイントを用いて講義を行い、後半は課題を提示し、個別やグループで学修する形態とする。毎時間、課題の学修結果を提出する。グループでの協議も適時行う。</p> <p>後半から演習として、絵本の読み聞かせやストーリーリングの実践、紙芝居の作成、実践を行い、交流し合う。</p>
能動的な学びの実施	<p>アクティブラーニングの実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について個別学修を行った後、グループでの協議を取り入れる。</li> <li>・絵本の読み聞かせやストーリーリングの実践、紙芝居の作成、実践等の演習を行い、交流することで相互評価し合う。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習は前時に示された課題について調べたり、準備したりすること。（1時間程度）</li> <li>・復習は学修した内容を再度確認し、習得できるようにすること。（1時間程度）</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館 適時資料を配布</p> <p>参考書：塩美佐枝『保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助』ミネルヴァ書房 秋田喜代美, 砂上史子編『子どもの姿からはじめる領域・言葉』みらい</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験、レポート 50%</li> <li>・模擬保育課題（グループ、個人）など 30%</li> <li>・絵本、児童文学に関するレポート 20%</li> </ul>
課題等に対するフィードバック	<p>・毎時間の学修後に授業の振り返りを記入して提出する。それについては全てコメントを加え、次の授業にて返却するので、それを活用して学修課題や学修への取組についてフィードバックすること。</p>
オフィスアワー	CAMPUSSQUAREを参照
留意事項	幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目であるため、必ず履修すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン（オンデマンド課題）学修 15回に切り替える。</p> <p>Campus Squareの掲示板またはレポート提出欄に課題・動画URL等を提示し、レポート提出欄から課題を提出する形式をとる。</p> <p>毎時間の課題 50% 期末のポート 50%で評価する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育内容（環境）（U1組）
授業コード	BM275A
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	渡辺 令子, 木場 有紀
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、乳幼児の発達に即し深い学びが実現される過程を踏まえて、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。 授業を通して、幼児保育学科のディプロマポリシーに掲げる、保育者としての実践的な活動を支える専門的知識や技能を獲得することができる。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本学教員の渡辺は元公務員保育士であり、乳幼児の保育現場での保育者及び保育行政における専門職としての知識・経験を生かし、理論と経験を融合した授業を展開する。
到達目標	1．幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、乳幼児の発達に即し深い学びが実現される過程を踏まえて、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。 2．幼児の発達及び学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 カリキュラムポリシーに掲げる、「各領域に関する基礎的な知識、及び環境を通じた総合的な指導法について学ぶ科目。（領域及び保育内容の指導法に関する科目）」に該当する。
計画・内容	第1回： 授業内容説明（担当：渡辺） 保育内容（領域「環境」）の専門的事項 及び指導法 - 子どもを取り巻く環境 - - 保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容 - 第2回： 保育内容（領域「環境」）の専門的事項 （担当：渡辺） - 身近な環境とのかかわりと感性の育ち - 第3回： 保育内容（領域「環境」）の指導法 （担当：渡辺） - 乳児保育における「環境」とのかかわり - 第4回： 保育内容（領域「環境」）の専門的事項 （担当：渡辺） - 社会とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）・課題説明 - 第5回： 自然に親しみ、生き物に触れる保育の実際（担当：木場） - 飼育動物、昆虫等との触れあいと環境の構成 - 第6回： 自然に親しみ、生き物に触れる保育の実際（計画立案）（担当：木場） - 園内の生き物と指導計画 - 第7回： 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際（担当：木場） - 栽培物、植物とのかかわりと環境の構成 - 第8回： 保育内容（領域「環境」）の指導法 （担当：渡辺） - 課題『私が考える社会とのかかわりを支える保育の展開』発表 第9回： 標識・文字、情報等に関わる保育の実際（担当：木場） - 園生活や遊び、活動の中で、標識・文字、情報等に触れる経験 - 第10回： 数量・図形等に関わる保育の実際（担当：木場）

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 園生活や遊び、活動の中で、数量・図形等に触れる経験 -</li> <li>第11回： 保育内容（領域「環境」）の専門的事項（担当：渡辺）</li> <li>- モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び）・課題説明 -</li> <li>第12回： 保育内容（領域「環境」）の指導法（担当：渡辺）</li> <li>- モノとのかかわりを支える保育の展開・グループ活動 -</li> <li>第13回： 保育内容（領域「環境」）の指導法（担当：渡辺）</li> <li>- モノとのかかわりを支える保育の展開・グループ活動発表 -</li> <li>第14回： 保育内容（領域「環境」）の指導法（担当：渡辺）</li> <li>- モノとのかかわりを支える保育の展開・グループ活動発表振り返り -</li> <li>第15回： まとめー講義内容・演習の理解度をはかるー（担当：渡辺・木場）</li> </ul>
授業の進め方	・講義、演習を織り交ぜて行う。
能動的な学びの実施	・グループディスカッション、グループワークなども行いながら各学生が積極的に考えを述べあったり、共に課題を解決したりする。
授業時間外の学修	資料や講義内容と関連付けて自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	参考書 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・厚生労働省・文部科学省 『保育内容「環境」』久保健太/高嶋景子/宮里暁美編著 新しい保育講座 ミネルヴァ書房
成績評価方法と基準	・試験（50％）レポート（30％）授業態度（20％）
課題等に対するフィードバック	・提出された課題、レポートについては添削、コメントを記入して戻す。
オフィスアワー	CampusSquare参照
留意事項	幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業、又は CampusSquareによる課題学修 試験（50％）レポート（30％）授業態度（20％）

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育内容（健康）（U1組）
授業コード	BM273A
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	今西 ひとみ, 小林 咲里亜
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	領域「健康」の意義やねらい、内容、内容の取扱いについて学び、乳幼児期の発達過程に基づいた望ましい健康のあり方に関する知識を理解する。また現場での指導・援助を行うための実践的な技能や能力を習得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	対象外
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の子どもの心身の健やかな成長を育むために必要な知識・技能を身につけることができる。</li> <li>・乳幼児期の心とからだについて理解し、生活習慣や安全管理の能力を身につけることができる。</li> <li>・このことにより、学科がディプロマ・ポリシーに掲げる「保育学や幼児教育の学びを通して、子どもたちの可塑性に富んだ活動に対応できる専門的な知識や技能をもち、未来を担う子どもたちに伝えるべき新たな教育・保育方法を考案することができる」を健康領域の立場から実践できる能力の確保と、カリキュラムポリシーにある「学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す」に貢献できることを目指す。</li> </ul>
計画・内容	<p>第1回：オリエンテーション、健康とはなにか  第2回：健康教材「たこ（凧）」あそびの意義の理解  第3回：健康教材「たこ」作成と年齢への応用  第4回：健康教材「たこ」あそびの実践と指導案への展開  第5回：健康教材「健康かるた」あそびの意義の理解  第6回：健康教材「健康かるた」作成と年齢への応用  第7回：健康教材「健康かるた」あそびの実践と指導案への展開  第8回：教材から指導案作成へのまとめ</p> <p>第9回：運動あそび提供実践 かけっこ  第10回：運動あそび提供実践 短縄  第11回：運動あそび提供実践 大縄  第12回：運動あそび提供実践 バルーン  第13回：運動あそび提供実践 伝承遊び  第14回：運動あそび提供実践 リズム体操  第15回：理解度確認、まとめ</p>
授業の進め方	乳幼児の心や成長に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、乳幼児の育ちに即した教育・保育について、根拠をもち説明できるようにしてゆく。具体的には、教科書に沿った講義および保育実践に応用できる演習内容を適宜織り交ぜて進める。
能動的な学びの実施	適宜、運動遊びや保育教材の制作など実践的保育につながる内容を盛り込んで多様な保育ニーズに対応できるようにする。
授業時間外の学修	<p>毎回の授業前後に、90分の予習・復習を実施すること。</p> <p>予習：模擬保育の準備を行う。</p> <p>復習：配付資料やプレゼンテーションの内容、講義中話をしたことをノートにまとめる。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

授業時間外の学修	
教科書・参考書	【参考図書】 (演習) 保育内容「健康」河邊貴子、吉田伊津美(編) 建帛社
成績評価方法と基準	・運動あそびを中心とした模擬保育の実践、実技点(60%) ・提出物、授業態度点等(40%)
課題等に対するフィードバック	学生からのコメントペーパーをもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	本授業は保育士資格および幼稚園教職免許取得の必修科目である。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	基本的には 課題提出授業とyoutube講義を併用する、シラバスは対面と同じ 評価は提出された課題をもって行う。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	子どもと造形
授業コード	BM217
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	渡部 晃子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	幼児教育における領域「表現」についてその総合的な内容および特性を把握し、表現を育む保育者を目指して題材研究を中心に演習を行う。またグループでの活動を行うことにより、複眼的なイメージの形成や共有を図り、創造性を引き出す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	授業者の元中学校（美術）講師の経験および小学校教員養成大学での勤務経験を踏まえて幼・小・中学校のつながりを見据え、表現の発達に即した題材、適切な材料や用具、表現手法などを検討する。
到達目標	<p>カリキュラムポリシーの「各領域に関する基礎的な知識、及び環境を通じた総合的な指導法について学ぶ」為に以下の目標を設定し、造形表現に関わる知識・技能を高め、実践力を身につけることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な素材を用いた表現技法を体験することをとおして造形表現の多様な内容および支援の在り方について検討する。</li> <li>・子どもの造形的発達を想定して題材を設定するとともに、その準備や支援方法、子どもの表現を引き出すための環境等、総合的に把握する。</li> <li>・現代における造形表現の意義を考え、子どもの成長と発達を踏まえた指導計画および省察と評価を実践することができる。</li> </ul>
計画・内容	<p>第1回 ガイダンス：授業の概要、評価、準備物等の確認</p> <p>第2回 子どもの造形表現とその発達</p> <p>第3回 様々な絵の具を用いた表現</p> <p>第4回 クレヨン・パスを用いた表現</p> <p>第5回 版の不思議 ステンシル</p> <p>第6回 材料で遊ぶ コラージュ</p> <p>第7回 環境を豊かにする飾り 発想と構想</p> <p>第8回 環境を豊かにする飾り 仕上げと鑑賞</p> <p>第9回 絵本をもとにしたイメージの表現 発想と構想</p> <p>第10回 絵本をもとにしたイメージの表現 製作と検討</p> <p>第11回 絵本をもとにしたイメージの表現 鑑賞と振り返り</p> <p>第12回 劇遊びの表現 発想と構想</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第13回 劇遊びの表現 製作と検討</p> <p>第14回 劇遊びの表現 仕上げ</p> <p>第15回 鑑賞 活動計画の発表・まとめ</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習形式で行う。</li> <li>・個別の製作とグループでの共同製作を実施するが、活動の進行状況や人数によって変更が生じる場合もある。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<p>アクティブ・ラーニングを取り入れたグループ活動を実施する。授業のほか発想や構想を深めるよう予習を促す。</p>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前には、授業に関連する内容について調べておき、必要な材料・用具を準備する。(1時間程度)</li> <li>・授業後は、授業内容の記録と振り返りを行う。(1～2時間程度)</li> </ul>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領(文部科学省)</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)</li> <li>・保育所保育指針(厚生労働省)</li> <li>・そのほか、適時資料を配布する。</li> </ul>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点(20%) 出席回数・態度・授業への取り組み姿勢</li> <li>・提出物(80%) 成果物・レポート</li> </ul>
課題等に対するフィードバック	<p>個々の製作過程において必要なコメントや助言を行い、活動への意欲を高める。また題材研究の記録や振り返りを行い、確認しながらコメントする。グループ活動における発表の成果を共有し、検討するために必要な指導を行う。</p>
オフィスアワー	<p>Campus Square を参照。</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では画材を使用するため、汚れても良い服装か着替え(エプロン等)を持参してください。</li> <li>・材料や道具は大学で用意しますが、個人で準備してもらう場合があります。その場合は授業内で事前にアナウンスを行います。</li> </ul>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンラインでの実施。シラバスを基本としながら適宜自宅で行える内容に変更して行う。</p> <p>評価方法・基準に変更なし。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	特別支援教育概論（障害児保育を含む）（U1組）
授業コード	BM280A
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	松山 寛
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この講義では、障害には知的障害を始め様々な障害がある事を学習し、基礎的理解を深める。さらに、保育場面での具体的な援助技術のための基礎知識・技術を習得し、障害児保育とはどのようなものかを学ぶ。保育士資格取得のための必修科目である。 幼児保育学科がディプロマポリシーとして掲げる、乳幼児の心や成長に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、乳幼児の育ちに即した教育・保育について、根拠をもち説明することができるようになることを目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育所で4年間の勤務経験があり、発達障がい、知的障がいなどのある子どもの保育を行ってきた。よって、実際の保育の現場において障がいのある子どもや保護者との関わりについて経験を共有していきたい。
到達目標	1. 障がい及び障がいのある子どもを取り巻く社会や制度、課題について理解する。 2. 障がいのある子どもの保育の内容と方法、及び障がいのある子を持つ保護者への支援の方法を理解する。 3. 障がいのある子どもがいる中で、クラス全体をどのように運営していくかについて考察し実際の場面に応じて考える能力を身に付ける。
計画・内容	第1回 後期授業オリエンテーション 障がい児保育の方法と形態（分離・統合・インクルーシブ） 第2回 子どもの行動観察と記録 第3回 ABA（応用行動分析）を通じた支援 第4回 発達障がいと構造化 第5回 グループワーク：構造化演習 構造化の方法を考える 第6回 グループワーク：構造化演習 構造化を実践する 第7回 グループワーク：構造化演習 構造化について発表する 第8回 グループワーク：構造化演習 構造化について共有する 第9回 SSTで子どもの社会性を育てる 第10回 障がいがある子どもの力を伸ばす保育活動 第11回 障がいがある子どもと共に過ごす保育活動 第12回 偏見をなくすアンチ・バイアス・カリキュラム 第13回 障がい児保育の計画と評価 第14回 就学と特別支援教育 第15回 全体のまとめ  予習：授業前にテキストを読み、不明の語句があれば調べておくこと。 復習：配布資料を基に授業の内容をまとめ、確認問題を行うこと。
授業の進め方	・講義を行い、講義内容に関連した課題を行う。 ・授業内容をまとめたレジュメプリントを配布するので、メモをとりながら授業に参加すること。 ・グループワークでは演習を通して障がいのある子どもの支援方法を実践する。

## 2025年度 千住学部時間割

能動的な学びの実施	グループワークを通し、互いに意見を交換しあいながら実際の保育の場面で使えるような支援方法を考えていく。
授業時間外の学修	予習：30分 教科書を確認し授業の関連箇所を目を通す 復習：30分 授業中の配布資料や授業内容をまとめる 授業に関する課題に取り組む
教科書・参考書	・教科書：「多様な子どもたちの発達支援 園内研修ガイド」Gakken 藤原 里美  ・参考書：「演習・保育と障がいのある子ども」みらい 野田敦史・林恵編を使用する。 参考書は購入は求めないが、授業中に参照することが多いため、持っているとう理解の助けとなる。  その他授業資料を配布する。
成績評価方法と基準	試験、確認問題の成績、授業中の課題や考慮し、総合的に評価する。 まとめ課題（40%）課題（25%）グループワーク（25%）授業態度（10%）  試験の記述やグループワークはルーブリックを用いて評価する。
課題等に対するフィードバック	・小テストについてオンラインで採点及び解説を行う。 ・課題の中で授業へのコメントや質問を受け付け、授業で応答を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・本科目は保育士資格・幼稚園免許取得において必須科目である。 ・課題を必ず提出すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合の 授業の進め方 授業を動画とし、課題もオンラインで行う。  成績評価方法と基準 評価基準は変わらないが、 授業態度は課題の取り組みやフィードバックシートの記入を通して行う。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	こどもと文化
授業コード	BM309
英語名称	Cultural Consideration of Childhood
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	飯泉 祐美子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の変化とともに子どもを取り巻く文化の変遷を講義する。</li> <li>・学生自身の子ども時代を振り返り、具体的な遊びや教材を取り上げて、それぞれが子どもにとって何をもちたらずのか、理解を深められるようにディスカッションする。</li> <li>・具体的な教材や教具を取り上げ、それらの持つ意味など保育者としての知識を獲得する。あわせて、子どもへの提示の仕方・指導の在り方についても学ぶ。</li> </ul>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く文化の変遷を踏まえながら、子どもを取り巻く文化について学ぶ。</li> </ul> 幼稚園、インターナショナルスクールナーサリーセクションキンダーセクションなどで教育経験のある教員がその経験をもとに子ども文化について講義する。
到達目標	カリキュラムポリシーの「学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目（保育・教育実践に関する科目）」の達成のために、以下の目標を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を習得する。</li> <li>・子どもをよく観察・理解し、そのよさや可能性を引き出す指導計画の立案及び実践ができる力量を身につける。</li> <li>・批判的思考力やコミュニケーション能力をもった自律した教育・保育者であり、学習者としての態度や志向性を身につける。</li> </ul>
計画・内容	第1回：オリエンテーション 子どもを取り巻く文化・子どもの生活と社会の出来事・子どものジェンダー 第2回：子どもの文化とは何か（1）子どもの文化の歴史 第3回：子どもの文化とは何か（2）子どもの遊び 第4回：子どもの文化とは何か（3）子どもの発達と児童文化財 第5回：児童文化財と保育（1）・素話・おはなし・絵本・紙芝居 第6回：児童文化財と保育（2）・ペープサート・エプロンシアター・パネルシアター・オペレッタ・手袋人形 第7回：子どもの音楽文化～わらべうたと伝承遊び 第8回：子どもの音楽文化～明治唱歌、大正童謡 第9回：子どもの音楽文化～昭和・平成・令和「子どものうた」、外国のあそびうた 第10回：児童文化財と保育(3)・玩具と遊具 第11回：伝統行事と伝承遊び(1)保育における1年の行事 第12回：伝統行事と伝承遊び(2)伝承遊び 第13回：グループワーク(1)文献研究 第14回：グループワーク(2)発表準備 第15回：グループワーク成果発表会

## 2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	講義だけでなく、グループディスカッション、グループワーク、発表など、適宜必要に応じた進め方をする。。
能動的な学びの実施	・グループディスカッション、グループワーク、発表など、主体的に参加型の授業がある。
授業時間外の学修	・授業時間外学習（合計60時間程度） 予習は支持がある場合に従って行う。指示のない回は、シラバスのタイトルに関して基本的な理解を得ておくこと 復習は、各回の授業中の資料、書きとめた内容をまとめ、ノートを作成する。
教科書・参考書	教科書 子どもの文化 教育情報出版  参考書 「コンパクト版 保育内容シリーズ 音楽表現」渡辺厚美・岡崎裕美 一藝社 「子どもとあそび」 仙田満著 岩波新書 「ものと子どもの文化史」 本田和子 勁草書房 「童謡の近代 メディアの変容と子ども文化」 周東美材 岩波現代全書
成績評価方法と基準	リアクションペーパー（45％）試験と発表（50％）授業態度（5％）
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーなどにより学生の理解度を確認し、適宜最適な手段を用いてフィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	グループワークおよびその成果発表会は試験相当の出席を原則とする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業動画配信によるオンデマンド授業と課題学習を組み合わせ実施する。 各分野とも授業課題で評価する。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	子育て支援（U1組）
授業コード	BM305
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	旦 直子, 奥平 かおり, 安部 久美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	現代の日本の子育て環境は、子育て不安や児童虐待、子どもの貧困の問題などが顕著化している。本講義においては、実践事例等を通し、保育実践の場で子育て支援を行うための基本的な知識を習得するとともに、技術として、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士資格を持ち、子育て支援施設職員の経験がある教員が担当する。子育てひろばの現場における子育て支援の実際や事例について紹介を通し、履修者が子育て支援において必要とされる態度および技術を身につけることを目指す。
到達目標	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。このことにより、学科がディプロマ・ポリシーに掲げる「教育学、心理学、保育学などの専門的知識や技能を習得し、乳幼児の育ちに即した教育・保育について、ねらい、内容、環境、保育方法等を、根拠と共に説明することができる。」ことを目指す。この科目は、専門科目のひとつであり、保育士資格取得のための必修科目である。
計画・内容	第1回 オリエンテーション/授業の進め方と諸注意/保育者の子育て支援の特性(旦・安部) 第2回 保育者の支援のニーズへの気づきと多面的な理解(旦) 第3回 保育実践における子育て支援(安部) 第4回 保育者の専門性と倫理(安部) 第5回 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会・場の提供(奥平・安部) 第6回 子育て支援の計画 在園児保護者支援プログラムの立案(安部) 第7回 子育て支援の計画 地域の保護者支援プログラムの立案(安部) 第7回 子育て支援の計画 保護者支援プログラム案内状の作成(安部) 第8回 子育て支援の計画 保護者支援プログラムの評価(安部) 第10回 保育所等を利用している保護者への支援(旦) 第11回 地域の保護者への支援(旦) 第12回 障害・発達上の課題のある子どもとその保護者への支援(旦) 第13回 不適切な養育・虐待が疑われる家庭への支援(旦) 第14回 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭への支援(旦) 第15回 まとめ(旦)
授業の進め方	パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料など適宜活用する。
能動的な学びの実施	グループ分けを行い、事例や課題について全員でディスカッションを行い、解決案を導いていく。
授業時間外の学修	配布資料と関連付けて自分の講義ノートを整理する。 (合計 60 時間程度)

## 2025年度 千住学部時間割

授業時間外の学修	
教科書・参考書	特になし。毎回資料を配布する。
成績評価方法と基準	平常点40%（授業への参加率や態度、調べ学習などを評価した点数）とレポート課題（安部担当分）30%および試験（旦担当分）30%により評価する。
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方 課題学修を実施する。</p> <p>成績評価方法と基準 平常点40%（授業への参加率や態度、調べ学習などを評価した点数）とレポート課題2回60%（30%×2回）により評価する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育の計画と評価
授業コード	BM317
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	松山 寛
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	この授業では保育における計画及び評価の意義と方法について学び、実際に計画を作って共有しながら理解を深めていく。 保育士資格、幼稚園教諭免許取得のための必修科目である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育所で4年間の勤務経験があり、様々な課題を抱える家庭の子どもの保育を行ってきた。よって、実際の保育の現場において子どもや保護者への支援について経験を共有していきたい。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。</li> <li>2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。</li> <li>3. 子どもの理解に基づく計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を捉え、理解する。</li> </ol> <p>幼児保育学科がディプロマポリシーとして掲げる、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善まで行うことができるようになることを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回 授業オリエンテーション、保育と計画  第2回 「教育課程」「全体的な計画」と指導計画  第3回 演習：全体的な計画を考える 園の方針を考える  第4回 演習：全体的な計画を考える 園の方針を計画に落とし込む  第5回 演習：全体的な計画を共有する  第6回 演習：全体的な計画を評価する  第7回 園の方針と行事の在り方  第8回 指導計画の作成の基本とその方法  第9回 活動提案型の指導案と遊び発展型の指導案  第10回 演習：一日の指導計画を考える  第11回 演習：一日の指導計画を作成する  第12回 演習：一日の指導計画を共有する  第13回 演習：一日の指導計画を評価する  第14回 保育の実践と記録  第15回 保育を評価し改善する過程、まとめ課題</p> <p>予習：授業前にテキストを読み、不明の語句があれば調べておくこと。  復習：配布資料を基に授業の内容をまとめ、確認問題を行うこと</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を行い、講義内容に関連した課題を行う。</li> <li>・グループワークに時間を取り、保育の計画を考えながら実践を通して学ぶ。</li> <li>・授業内容をまとめたレジュメプリントを配布するので、メモをとりながら授業に参加すること。</li> </ul>
能動的な学びの実施	指導案を発表し互いに意見を交換し合うことで、能動的な学びを実践していく。

## 2025年度 千住学部時間割

授業時間外の学修	<p>予習：各回2時間程度 教科書を確認し授業の関連箇所に目を通す</p> <p>復習：各回2時間程度 授業中の配布資料や授業内容をまとめる 授業に関する課題に取り組む</p>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：「幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方（第二版）」久富 陽子【編著】萌文書林（2017）を使用する。</li> <li>・必要に応じて資料を配布する。</li> </ul>
成績評価方法と基準	<p>試験、確認問題の成績、授業中の課題や考慮し、総合的に評価する。 指導案の作成・発表（70%）、課題（20%）授業態度（10%）</p> <p>指導案はルーブリックを用いて評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を共有し合い講評してフィードバックを行う。</li> <li>・課題の中で授業へのコメントや質問を受け付け、授業で応答を行う。</li> </ul>
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は保育士資格・幼稚園教諭免許取得において必須科目である。</li> <li>・課題を必ず提出すること。</li> </ul>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>非対面授業となった場合の 授業の進め方 授業は動画、演習はzoomとし、課題もWebClass等オンラインで行う。</p> <p>成績評価方法と基準 評価基準は変わらないが、 授業態度は課題の取り組みやフィードバックシートの記入を通して評価する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	食育演習
授業コード	BM362
英語名称	Shokuiku Seminar
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	渡辺 令子, 神尾 美香子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針「第3章 健康及び安全 2 食育の推進」保育所の特性を生かした食育に関する保育内容や目標を理解する。また、食育の環境について食材や食の循環・環境への意識、調理する人との関わり、地域の関係者との連携及び協働の下で、食に関する取組を進めていくことを理解する。</li> <li>・ 食を通じた保護者支援について具体的な事例を通して意見交換を行い、相互的な学習が進むようにする。</li> <li>・ 保育の中での様々な食育活動の実践を体験しながら、保育現場で生かしていく力をもてるようにする。</li> </ul>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>幼保連携型認定こども園園長職にあり保育現場の第一線で活躍中の外部講師（神尾）と本学教員(渡辺,元公務員保育士,食育研究対象保育所での実務経験)により、乳幼児期の食を通じた保育を目指すために、保育現場での実践を通じた専門職としての知識・経験を生かし、理論と経験を融合した授業を展開する。</p>
到達目標	<p>幼児保育学科がディプロマ・ポリシーに掲げる、6「保育学や幼児教育の学びを通して、子どもたちの可塑性に富んだ活動に対応できる専門的な知識や技能をもち、未来を担う子どもたちに伝えるべき新たな教育・保育方法を考案」することができることを主眼とする。そのために以下の目標を達成するように指導する。</p> <p>(1) 保育所の特性を生かした食育に関する保育内容・目標について知り、自らの保育観を身につける。</p> <p>(2) 食育の環境として自然環境への意識、調理する人との関わり、地域の関係者との連携及び協働の下で、食に関する取組を進めていくことを理解することができる。</p> <p>(3) 様々な食育活動を演習・グループ活動において実践し、保育現場で生かしていく必要な力を身に付けることができる。</p>
計画・内容	<p>第1回 オリエンテーション 班決め（担当 渡辺 以下すべての回を担当）</p> <p>第2回 保育所保育指針「食育の推進」における保育内容及び目標</p> <p>第3回 私の食育を振り返り、自らの保育観を知る</p> <p>第4回 私の思い出のお弁当・給食を描いてみよう/製作・発表</p> <p>第5回 保育所における乳幼児の食育実践活動から学ぶ 0歳児の食育</p> <p>第6回 グループ演習：保育の中での様々な食育活動の実践（実習：ミルク）</p> <p>第7回 保育所における乳幼児の食育実践活動から学ぶ 1歳児の食育</p> <p>第8回 演習：保育中での様々な食育活動の実践（保育教材準備）</p> <p>第9回 演習：保育中での様々な食育活動の実践（保育教材作成）</p> <p>第10回 演習：保育中での様々な食育活動の実践（保育教材作成）</p> <p>第11回 保育所における乳幼児の食育実践活動から学ぶ 2歳児の食育</p> <p>第12回 グループ演習：事例「自分でできることはしたい」から考える</p> <p>第13回 演習：保育中での様々な食育活動の実践（保育教材発表/前半）</p> <p>第14回 演習：保育中での様々な食育活動の実践（保育教材発表/後半）</p> <p>第15回 保育所等における乳幼児の食育実践活動から学ぶ 乳幼児の食育 【 ゲストスピーカー：神尾, 幼保連携型認定こども園園長】</p> <p>第16回 グループ演習：保育所における乳幼児の食育実践活動から考える 乳幼児の食育</p> <p>第17回 グループ演習：保育中での様々な食育活動の実践（クッキング保育について）</p> <p>第18回 グループ演習：保育中での様々な食育活動の実践（クッキング保育計画準備）</p> <p>第19回 グループ演習：保育中での様々な食育活動の実践（実習：クッキング保育）</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第20回 グループ演習：保育中での様々な食育活動の実践（実習：クッキング保育）</p> <p>第21回 食の環境の整備 自然環境・調理をする人・保護者との関わり</p> <p>第22回 演習：1限の学修からテーマを選択し、グループディスカッション・発表</p> <p>第23回 保育中での様々な食育活動の実践 3歳以上児の食育</p> <p>第24回 演習：「主体性を活かしたランチルームとは」の準備</p> <p>第25回 グループ演習：私たちが考える「楽しく食べる子どもに」の実践/話し合い・準備</p> <p>第26回 グループ演習：私たちが考える「楽しく食べる子どもに」の実践/話し合い・準備</p> <p>第27回 グループ演習：保育中での様々な食育活動の実践(実習：ランチルームのバイキング給食)</p> <p>第28回 グループ演習：保育中での様々な食育活動の実践(実習：ランチルームのバイキング給食)</p> <p>第29回 グループ演習：私たちが考える「楽しく食べる子どもに」の実践の発表/前半</p> <p>第30回 グループ演習：私たちが考える「楽しく食べる子どもに」の実践の発表/後半</p>
授業の進め方	<p>実際の保育中での食育実践の事例を取り上げて、講義、製作、調理実習、演習、グループワーク・ディスカッション、発表を中心とした授業を展開する</p>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では実践事例の写真や実際の保育現場等の映像から、学生自身が感じたり、考えたり、想像したり、互いに話し合ったりしながら理解を深めていく。</li> <li>・グループ演習 ～ では、実際の保育の食育活動を検討し、グループのメンバーと協力しながら、計画、準備、実習、振り返りを通して、食育の学びを深めていく。</li> <li>・グループ演習の総まとめとして、私たちが考える「楽しく食べる子どもたちに」の実践活動を通じた学びの発表を行う。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業においては、予習として次回の授業内容に関する配布資料を通読しておくこと。（30分程度）</li> <li>・授業で配布された資料と関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（30分程度）</li> </ul>
教科書・参考書	<p>参考書</p> <p>厚生労働省 「保育所保育指針解説書」</p> <p>財団法人 児童育成会 児童給食事業部 発行 保育所における食育研究会 「子どもがやく 乳幼児の食育実践へのアプローチ」</p>
成績評価方法と基準	<p>成績評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での演習を通じた理解力・技術力・実践力</li> <li>・保育教材の活用・製作を通じた目的意識をもった実行力・表現力</li> <li>・調理実習を通じた食育活動の意義と保護者支援への理解</li> <li>・グループ活動を通じた協働性・実行力</li> </ul> <p>基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での演習（30％）</li> <li>・グループ活動・発表（30％）</li> <li>・課題への取組・提出物（40％）</li> </ul>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の毎回の演習については、その授業内においてフィードバックする。</li> <li>・製作物については、コメントを付与して返却する。</li> <li>・学生の発表やグループワークの発表については、その都度コメントを行う。</li> </ul>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目の授業では、授業の詳細のガイダンスをするので、内容を確認し、選択科目の履修を決定するよう、選択希望の学生は第1回授業から出席すること。</li> <li>・授業全体を通してグループを主体とした活動を展開するため、グループメンバーは学生主体として公平に決定することとする。さらに、保育所現場を想定したチームワークを学ぶ場として、最後の授業までグループ内において相談・報告・連絡等、協力し合いながら学修を進めていく。</li> <li>・調理実習の実施において、留意点（健康面&lt;発熱・咳・下痢・手先の怪我等がない状態&gt;、清潔面&lt;手洗い励行・つけ爪なし・長髪ゴム等でまとめる等清潔な状態&gt;）・持ち物（エプロン・三角巾・マスク・手拭きタオル）の準備ができることを遵守する。</li> </ul>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>zoomによるオンライン授業及び、CampusSquareを活用した課題学修とする。</p> <p>演習（30％）+課題個別活動・発表（30％）+提出物（40％）</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	子ども家庭支援論
授業コード	BM368
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	松山 寛, 佐藤 浩世
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	この授業では子どもとその家庭への理解を深め、子育て支援を行う意義、子育て支援に関わる制度、その中での保育士の役割とそのための方法を明らかにする。 保育士資格取得のための必修科目である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育所で4年間の勤務経験があり、様々な課題を抱える家庭の子どもの保育を行ってきた。よって、実際の保育の現場において子どもや保護者への支援について経験を共有していきたい(松山)。 イラストレーター・エッセイ漫画家として虐待児について自身の経験を踏まえつつ出版をしている。虐待家庭の子どもの育ちについて講義を行う(佐藤)
到達目標	1. 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解する。 2. 子育て家庭のニーズに応じた支援の方法と体制について理解する。 3. 子育て家庭の現状と課題について理解する。 幼児保育学科がディプロマポリシーとして掲げる、他者への共感性や思いやり、コミュニケーション力を身に付け、乳幼児との愛着関係を築き、乳幼児の内に他者への信頼感や感性を養うことができるようになることを目指す。
計画・内容	第1回 授業オリエンテーション、子ども家庭支援の意義(松山) 第2回 子どもを取り巻く環境、家族と地域社会と労働の変遷(松山) 第3回 ジェンダーの視点で家族をとらえる(松山) 第4回 家族の抱える課題1(虐待とDV)(松山) 第5回 課題のある家庭で育つ子ども(エッセイ漫画家 佐藤、松山) 第6回 家族の抱える課題2(貧困、親の精神疾患、外国にルーツを持つ家庭)(松山) 第7回 子育て家庭支援に関わる法律と制度(松山) 第8回 子育て支援サービスの機能とその落とし穴(松山) 第9回 多様な支援の展開(松山) 第10回 保育士による子ども家庭支援(松山) 第11回 家族の抱える課題に合わせた関わり(松山) 第12回 地域の社会資源と関係機関との連携・協力 (グループワーク 問題点を明らかにする)(松山) 第13回 地域の社会資源と関係機関との連携・協力 (グループワーク 社会資源を利用し解決方法を考える)(松山) 第14回 世界の子育て支援と子ども家庭支援の課題と展望(松山) 第15回 まとめ(松山)  予習: 授業前にテキストを読み、不明の語句があれば調べておくこと。 復習: 配布資料を基に授業の内容をまとめ、確認問題を行うこと。

## 2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を行い、講義内容に関連した課題を行う。</li> <li>・支援のケースを取り上げそれについてディスカッションを行いながら支援のあり方について考える。</li> <li>・授業内容をまとめたレジュメプリントを配布するので、メモをとりながら授業に参加すること。</li> </ul>
能動的な学びの実施	グループ活動を行い互いに意見を交換し合うことで、能動的な学びを実践していく。
授業時間外の学修	<p>予習：2時間程度 教科書を確認し授業の関連箇所を目を通す</p> <p>復習：2時間程度 授業中の配布資料や授業内容をまとめる 授業に関する課題に取り組む</p>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：「実践 こども家庭支援論」 ななみ書房 松本 園子, 永田 陽子, 福川 須美, 森 和子 (著) (2023) を使用する。</li> <li>・必要に応じて資料を配布する。</li> </ul>
成績評価方法と基準	<p>試験、確認問題の成績、授業中の課題や考慮し、総合的に評価する。</p> <p>まとめテスト(40%)、課題(50%) 授業態度(10%)</p> <p>まとめテストの記述問題はルーブリックを用いて評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストについてオンラインで採点及び解説を行う。</li> <li>・課題の中で授業へのコメントや質問を受け付け、授業で応答を行う。</li> </ul>
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は保育士資格取得において必須科目である。</li> <li>・課題を必ず提出すること。</li> </ul>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>非対面授業となった場合の 授業の進め方 授業は動画、ディスカッションはzoomとし、課題もWebClass等オンラインで行う。</p> <p>成績評価方法と基準 評価基準は変わらないが、 授業態度は課題の取り組みやフィードバックシートの記入を通して行う。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	教育経営論（幼）
授業コード	BM358
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	三石 美鶴, 後藤 登美子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	幼稚園教諭をはじめ保育者は、各保育施設において保育とともに幼児教育に携わることとなる。本授業では、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に準拠した教育課程の編成計画（Plan）・実施（Do）・評価（check）・改善（Action）のPDCAサイクルについて理解し、教育課程は保育施設のみで編成するのではなく、家庭・地域社会・行政等とも連携し、子供たちの健やかな成長を目指すことについても理解する。実際の保育現場における教育課程の計画的・組織的な立案・遂行について学び、危機管理意識をもち、評価の実際についても学ぶことにより、常により良い教育・保育を目指す保育者を育成する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員として長く教育現場で勤務してきた経験を活かし、学校における計画的・組織的な教育課程の編成・実施・評価・改善の実際について教授する。</li> <li>・管理職として学校経営・教育経営に携わってきた経験を生かし、保育者としてまた組織の一員として教育経営の一翼を担うという自覚を持たせるとともに実践意欲を高揚する。</li> </ul>
到達目標	<p>本学のディプロマ・ポリシーの則って、次のような知識・態度・能力の獲得を目指す。</p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育経営の内容の理解</li> <li>教育経営上必要な実践的で具体的な知識の習得</li> </ul> <p>【態度・能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育経営の実践者としての自覚と意欲の醸成</li> <li>専門職としての保育者の使命感、倫理観、規範意識の涵養</li> </ul> <p>カリキュラム・ポリシーに即し、保育現場において、21世紀をたくましく生き抜く子どもを育成するうえで不可欠な教育経営学の専門的知識の学修を通して、子どもを慈しむ温かい心と命の大切さを伝える力量を備えた人材を育成することを到達目標とする。</p>
計画・内容	<p>第1回 オリエンテーション・教育経営について考える</p> <p>第2回 幼児教育の礎となる法令等について学ぶ</p> <p>第3回 幼児教育と保育の歴史について理解する</p> <p>第4回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷について理解する</p> <p>第5回 組織で実践する教育経営について学ぶ</p> <p>第6回 震災時の保育者の役割について理解する</p> <p>第7回 保育者として危機管理・安全管理について考える</p> <p>第8回 計画的な教育経営 - 教育課程の編成について理解する</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第9回 一日指導案について理解し、作成する</p> <p>第10回 一日指導案を完成させ、交流する</p> <p>第11回 学習評価及び教育課程全般の評価について理解する</p> <p>第12回 特別支援教育について学ぶ</p> <p>第13回 特別な支援を必要とする障害について調べ、交流する</p> <p>第14回 幼・保・小の連携について考える</p> <p>第15回 まとめ・保育者としてどのように教育経営に携わるのかを考える</p>
授業の進め方	<p>前半はパワーポイントを用いて講義を行い、後半は課題を提示し、個別やグループで学修する形態とする。毎時間、課題の学修結果を提出する。グループでの協議も適時行う。</p> <p>第9回・10回は、個別に作成した一日指導案を発表し、質疑応答を行う等の交流学修を行う。</p> <p>第13回では、グループごとに選択した障害について調べ、ポスターにまとめ発表する活動を取り入れる。映像資料や新聞記事等を適宜活用する。</p>
能動的な学びの実施	<p>アクティブラーニングの実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について個別学修を行った後、グループでの協議を取り入れる。</li> <li>・演習として第9回・10回は、個別に年間計画から時期を選択し、主活動を決定して一日指導案を作成する。グループや全体で行う相互評価を通してよりよい指導案作成を目指す。</li> <li>・第13回では、グループごとに選択した障害について調査する問題解決学修を取り入れ、調査結果を交流する。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習は前時に示された資料を読んだり、課題について調べたりする学修を行う。(1時間程度)</li> <li>・復習は学修した内容を再度確認し、習得できるようにする。(1時間程度)</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書 幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年 (毎時間携帯すること) 適時、資料を配布する</p> <p>参考書 トポスの経営理論 青木久子・松村和子著 萌文書林 2019年 幼児教育方法論 戸江茂博監修 学文社 2019年</p>
成績評価方法と基準	<p>授業内で指示する課題の提出 50%</p> <p>期末試験 50%</p>
課題等に対するフィードバック	<p>・毎時間の学修後に授業の振り返りを記入して提出する。それについては全てコメントを加え、次の授業にて返却するので、それを活用して学修課題や学修への取組についてフィードバックすること。</p>
オフィスアワー	<p>Canpus Squareを参照のこと。</p>
留意事項	<p>本科目は、教員免許状取得のための【選択科目】にあたる。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン(オンデマンド課題)学修15回に切り替える。</p> <p>Canpus Squareの掲示板またはレポート提出欄に課題・動画URL等を提示し、レポート提出欄から課題を提出する形式をとる。</p> <p>毎時間のレポート 50% 期末のレポート 50%</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	教育史（幼）
授業コード	BM356
英語名称	History of Education
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	林 直美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、多様な教育の理念との関わりや過去から現代にいたるまでの教育および学校の歴史について講義する。そして教育に関するさまざまな思想や多様な教育理念が、実際の教育及び学校と関わっていることを明らかにする。さらに社会の状況を理解し、その変化が現在の学校教育にもたらす影響やそこから生じる課題ならびにそれに対応するための教育政策の動向を学ぶ。最後に、教育の歴史を学ぶということは、記憶することではなく考えることであることを理解する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	対象外
到達目標	<p>ディプロマ・ポリシーに掲げる「乳幼児の心や成長に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、乳幼児の育ちに即した教育・保育について、根拠をもち説明することができる」ようになるために必要な教育の基本的概念を身につける</p> <p>【知識・技能】 教育の歴史や思想について学ぶとともに、これまでの教育および学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。</p> <p>【子ども理解・保育を实践する力】 歴史的視点から教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身につけるとともに、現代の教育制度や教育実際の課題や取り組みについて自力で判断して解決できるようになる。</p>
計画・内容	<p>第1回：オリエンテーション 授業の概要の説明と確認</p> <p>第2回：教育とは何か 教育という言葉の成り立ち</p> <p>第3回：教育の原型をさぐる 家族と世俗文化の伝承</p> <p>第4回：教育の原型をさぐる 入社式</p> <p>第5回：子ども観の変遷 絵画から子ども観の変遷を読み解く</p> <p>第6回：西洋における教育の思想・制度・実践の歴史 コメニウス、ロックの教育論</p> <p>第7回：西洋における教育の思想・制度・実践の歴史 ルソー、ペスタロッチの教育論</p> <p>第8回：西洋における教育の思想・制度・実践の歴史 フレーベル、ヘルバルトの教育論</p> <p>第9回：新教育運動の生成と展開</p> <p>第10回：日本における教育の思想・制度・実践の歴史 伝統的社会における教育</p> <p>第11回：日本における教育の思想・制度・実践の歴史 江戸の教育</p>

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第12回：日本における教育の思想・制度・実践の歴史 近代学校制度と授業の成立</p> <p>第14回：戦後の教育改革</p> <p>第15回：変化する社会と教育の諸課題</p>
授業の進め方	<p>授業は基本的に講義形式で行い、パワーポイントや視聴覚教材などを適宜活用する。</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>学生の状況に応じて授業進度を調整することがある。</p>
能動的な学びの実施	<p>授業内容に応じてコメントペーパーを配布する。</p> <p>学生が課題に取り組むグループワーク（ディスカッションやディベート）などを行い、解決案を導いていく。</p> <p>適宜学生への問いかけを行う予定なので、積極的な授業参加が期待される。</p>
授業時間外の学修	<p>日頃から歴史に関する情報収集し、授業内でディスカッションを行ったり、コメントペーパーに記入したりする際に活用できるよう準備しておく。</p> <p>テキストやプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。</p> <p>（合計60時間程度）</p>
教科書・参考書	<p>参考書：橋本美保・遠座知恵編『教育の理念と歴史』一藝社、2024年</p>
成績評価方法と基準	<p>【授業内評価】コメントペーパーの提出状況と記載内容（50%）</p> <p>【平常点】ディスカッションやディベートでの授業への参加の度合（20%）</p> <p>【レポート】課題に対する適切な内容・記述（30%）</p>
課題等に対するフィードバック	<p>授業内容に応じてコメントペーパーを配布し、次の授業以降においてフィードバックを行い、学生の共通理解を図る。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照。</p>
留意事項	<p>本科目は教員になろうとする者にとって重要であるので履修が望ましい。</p> <p>教育原理の授業で使用したものを確認しておくとう理解しやすくなる。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <p>Zoomによるオンライン授業または授業動画配信によるオンデマンド授業を実施する。授業後、授業内容に関する課題に取り組む。</p> <p>成績評価方法と基準</p> <p>【平常点】授業後の課題の提出状況と内容（50%）</p> <p>【レポート】課題に対する適切な内容記述（50%）</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	幼児の音楽表現実践演習
授業コード	BM272
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	飯泉 祐美子, 今西 ひとみ
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	将来保育者として音楽的な表現、身体的な表現、音楽を伴う音楽的身体表現を実践できることを目指し、その実践演習を行う。 この授業を履修し単位を習得することによって「あそびうたりトミック2級講師」認定資格及び「発達障がい児あそびうたりトミック講師」認定資格を取得することが出来る。 現場に必要な音楽的な実践実技（ピアノ弾き歌い）も実施する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教育現場での実践については、飯泉祐美子（元公立中学校教諭・元私立幼稚園教諭、元インターナショナルスクールナーサリーセクション）、今西ひとみ（元ナーサリーアカデミー、元日本語補習授業校教諭）がそれぞれの現場での事例を紹介し、進める。
到達目標	ディプロマポリシーの「身体表現や音楽、造形などの多様で豊かな表現方法で子どもと接し、周りとの協働しながら特別な配慮を必要とする子どもへの支援、多様な保育課題等に取り組むことができる。（表現力・協働する力）」や、カリキュラムポリシーの「学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目（保育・教育実践に関する科目）」として以下も目標を設定する。 将来保育者として音楽的な表現、身体的な表現、音楽を伴う音楽的身体表現を実践できることを目指す。 保育現場に必要なピアノ弾き歌い演奏技術を獲得する。
計画・内容	第1回：オリエンテーション かけあいあそびうた1 はじめまして音楽 1歳児のあそびうた表現活動について理解する。（飯泉）（今西） 第2回：からだあそびうた1 たまごのジャンプ 他 0歳児のあそびうた表現活動について理解する。（飯泉）（今西） 第3回：かけあいあそびうた2 いろいろかいじゅう 他 0歳児のあそびうた表現活動について理解する。（飯泉）（今西） 第4回：ことばあそびうた1・しりと1・かぞえうた1 いちご・ごりら・らっぱっぱー 他 2歳児のあそびうた表現活動について理解する（飯泉）（今西） 第5回：からだあそびうた2 あめふりがえるのかくれんぼ 他 1歳児のあそびうた表現活動について理解する（飯泉）（今西） 第6回：からだあそびうた3 ひまわりでんしゃブルースなつ 他 1歳児のあそびうた表現活動について理解する（飯泉）（今西） 第7回：即興あそびうた 替え歌づくり あいうえおかお 他 即興あそびうたについて理解する。発達障がい児の表現活動について理解する。（飯泉）（今西）" 第8回：中間のまとめ 前半で行った活動をまとめる。（飯泉）（今西） 第9回：かけあいあそびうた3 はじめまして音楽 1歳児のあそびうた表現活動について理解を深める。（飯泉）（今西） 第10回：からだあそびうた4 たまごのジャンプ 他 0歳児のあそびうた表現活動について理解を深める。（飯泉）（今西） 第11回：かけあいあそびうた4 いろいろかいじゅう 他 0歳児のあそびうた表現活動について理解を深める。

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>(飯泉)(今西)</p> <p>第12回: ことばあそびうた2・しりとり2・かぞえうた2 いちご・ごりら・らっぱっぱー 他 2歳児のあそびうた表現活動について理解する。(飯泉)(今西)</p> <p>"第13回: からだあそびうた5 あめふりがえるのかくれんぼ 他 1歳児のあそびうた表現活動について理解を深める。(飯泉)(今西)</p> <p>"第14回: からだあそびうた6 ひまわりでんしゃブルースなつ 他 1歳児のあそびうた表現活動について理解を深める(飯泉)(今西)</p> <p>第15回: 後半のまとめ 後半で行った活動を総括する。(飯泉)(今西)</p> <p>試験</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2名の教員が、主に分野の見地から同一テーマに取り組む。</li> <li>・授業担当者によって持ち物、服装、教室が異なるためしっかりと把握して授業に臨むこと。(特に欠席した後の回に注意)</li> <li>・授業は演習で進める。その方法は、小グループ活動や協働学習で学ぶ。</li> <li>・弾き歌い</li> </ul>
能動的な学びの実施	<p>グループワークを基本とする。</p> <p>グループ単位で「音楽的な表現活動」「身体的な表現活動」「弾き歌い活動」を実施する。</p>
授業時間外の学修	<p>「弾き歌い活動」に関する学習は原則毎日30分程度実施すること。</p> <p>授業前に予め当日の内容を把握する事。また、2人の教員で実施するため前時ではない回からの続きということがあるのでしっかり切り替えられるような事前 学習をすること。(各回2時間程度)</p> <p>・授業後は次時に続きの内容とならないことがあるのでしっかりと確認復習をすること。(各回2時間程度)</p>
教科書・参考書	<p>教科書</p> <p>「こどものうた85～やさしい伴奏から素敵な伴奏まで～2学期編」「こどものうた85～やさしい伴奏から素敵な伴奏まで～3学期編」共同音楽出版社</p> <p>参考書</p> <p>「こどものうた85～やさしい伴奏から素敵な伴奏まで～1学期編」共同音楽出版社</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野では、実技点90%+平常点10%(出席およびまとめの授業の参加態度を含む)の100%で採点する。</li> <li>・出席時数を満たしていても出席分野に偏りが生じると評価ができないことがある。</li> <li>・弾き歌いの課題の提出物の成果は実技試験として扱う。</li> </ul>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の表現の成果はその都度、コメントを行う。</li> </ul>
オフィスアワー	<p>CampusSquare を参照</p>
留意事項	<p>「あそびうたリトミック2級講師認定資格」「発達障がい児あそびうたリトミック講師認定資格」は履歴書に記入できる認定資格である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、保育者が現場で最も必要とする保育の表現技術である。</li> <li>・弾き歌いの課題の提出物の成果は実技試験として扱うため、不正な行為発覚の場合は試験における不正行為同等の扱いとなる。</li> </ul>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業動画配信によるオンデマンド授業とする。</p> <p>授業課題で評価する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	幼児の音楽表現実践演習
授業コード	BM319
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	飯泉 祐美子, 小林 咲里亜, 林 直美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	将来保育者として音楽的な表現、身体的な表現、音楽を伴う音楽的身体表現を実践できることを目指し、その実践演習を行う。 この授業を履修し単位を習得することによって「あそびうたリトミック1級課程修了」を取得することが出来る。 現場に必要な音楽的な実践実技（ピアノ弾き歌い）も実施する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	対象外
到達目標	[学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目]というカリキュラムポリシー実現のために、次の目標を定める。 将来保育者として音楽的な表現、身体的な表現、音楽を伴う音楽的身体表現を実践できることを目指す。 保育現場に必要なピアノ弾き歌い演奏技術を獲得する。
計画・内容	第1回：オリエンテーション リズムトレーニング1 表拍をたたく 裏拍をたたく 弾き歌いについて 第2回：音感トレーニング1・・・うたう 音名唱 弾き歌い1 創作表現1・・・グループ分けテーマ決め 第3回：リズムトレーニング2・・・8ビートを理解する 弾き歌い2 創作表現2・・・役割担当決め 第4回：音感トレーニング2・・・階名唱 弾き歌い3 創作表現3・・・役割ごとの準備 第5回：リズムトレーニング3・・・言葉とリズム 弾き歌い4 創作表現4・・・道具づくり（土台） 第6回：音感トレーニング3・・・八長調とそのコード 弾き歌い5（八長調コード伴奏） 創作表現5・・・道具づくり（パーツ完成） 第7回：リズムトレーニング4・・・2拍子、3拍子、4拍子、6拍子 弾き歌い6（八長調コード伴奏） 創作表現6・・・読み合わせ（ベタ） 第8回：音感トレーニング4・・・へ長調とそのコード 弾き歌い7（へ長調コード伴奏） 創作表現7・・・読み合わせ（役作り） 第9回：リズムトレーニング5・・・リズムによる音楽の性格 弾き歌い8（へ長調コード伴奏） 創作表現8・・・立ち稽古（位置確認） 第10回：音感トレーニング5・・・ト長調とそのコード 弾き歌い9（ト長調コード伴奏） 創作表現9・・・立ち稽古（言葉と動作）  第11回：リズムトレーニング6・・・リズム創作 弾き歌い10（ト長調コード伴奏） 創作表現10・・・立ち稽古（通し稽古） 第12回：音感トレーニング6・・・二長調とそのコード 弾き歌い11（二長調コード伴奏） 創作表現11・・・立ち稽古（通し稽古と衣装合わせ） 第13回：リズムトレーニング7・・・リズム表現 弾き歌い12（二長調コード伴奏） 創作表現12・・・ゲネプロ 第14回：あそびうたリトミック1級課程のまとめ 弾き歌い13

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	創作表現13・・・発表会 第15回：あそびうたリトミック1級課程のまとめ 音楽表現実践と活用のまとめ 弾き歌い14 創作表現14振り返り
授業の進め方	演習で進める。その形態は個人練習、グループワークなどその内容の実現のために主体的にできる方法で進める。
能動的な学びの実施	グループ単位で「音楽的な表現活動」「身体的な表現活動」「弾き歌い活動」を実施する。
授業時間外の学修	「弾き歌い活動」に関する学習は原則毎日30分程度実施すること。 ・授業前に予め当日の内容を把握する事。 ・授業後は次時に続きの内容とならないことがあるのでしっかりと確認復習をすること。（各回2時間程度）
教科書・参考書	「こどものうた 8 5 ～やさしい伴奏から素敵な伴奏まで～ 2 学期編」共同音楽出版社 「こどものうた 8 5 ～やさしい伴奏から素敵な伴奏まで～ 3 学期編」共同音楽出版社
成績評価方法と基準	・実技点 9 0 % + 平常点 10 %（出席およびまとめの授業の参加態度を含む）の 100 % で採点する。 ・出席時数を満たしていても授業内での達成が満たない場合は評価ができないことがある。 ・弾き歌いの課題の提出物の成果は実技試験として扱う。
課題等に対するフィードバック	・学生の表現の成果はその都度、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	「あそびうたリトミック 1 級課程」は履歴書に記入できる認定資格である。 ・本科目は、保育者が現場で最も必要とする保育の表現技術である。 ・弾き歌いの課題の提出物の成果は実技試験として扱うため、不正な行為発覚の場合は試験における不正行為同等の扱いとなる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業動画配信によるオンデマンド授業とする。 授業課題の評価 9 0 % + 提出状況 10 % で評価する。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	乳児保育
授業コード	BM227
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	松山 寛
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	3歳未満児（0, 1, 2歳児）の子どもたちは、初めてこの世界に出会い、食べ、歩き、話すようになる。この授業では3年の間にあまりに大きな変化を経験する乳児の発達と乳児保育のあり方について専門的知識の習得を図る。またそれらの背景となる3歳未満児を取り巻く家族、社会、制度などについても理解する。これらの知識が乳児保育で行う演習の基盤となる。 保育士資格取得のための必修科目である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教員は市役所の保育課職員として2年間務めた。また民間保育所にて保育士として4年間務めた。それらの実務体験を基に、実例を交えながら講義する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。</li> <li>2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。</li> <li>4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</li> </ol> <p>幼児保育学科がディプロマポリシーとして掲げる、乳幼児の心や成長に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、乳幼児の育ちに即した教育・保育について、根拠をもち説明することができるようになることを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回 乳児保育の意義と乳児の子育てをめぐる社会的状況</p> <p>第2回 保育所における乳児保育</p> <p>第3回 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）、小規模保育施設における乳児保育</p> <p>第4回 おもちゃに触れて考える発達と遊び</p> <p>第5回 0歳前半の発達・養護・教育</p> <p>第6回 0歳後半の発達・養護・教育</p> <p>第7回 1歳児の発達・養護</p> <p>第8回 2歳児の発達・養護</p> <p>第9回 1、2歳児の教育（健康・人間関係・言葉）</p> <p>第10回 1、2歳児の教育（環境・表現）</p> <p>第11回 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮</p> <p>第12回 乳児保育の計画・記録・評価とその意義</p> <p>第13回 職員間や関係機関との連携・協働</p> <p>第14回 保護者との連携・協働</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>予習：授業前にテキストを読み、不明の語句があれば調べておくこと。 復習：配布資料を基に授業の内容をまとめ、確認問題を行うこと。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を行い、講義内容に関連した課題を行う。</li> <li>・授業内容をまとめたレジュメプリントを配布するので、メモをとりながら授業に参加すること。</li> </ul>

## 2025年度 千住学部時間割

能動的な学びの実施	・授業内容に基づいた保育の実践課題を適宜取り入れていく。
授業時間外の学修	予習：2時間程度 保育所保育指針を確認し授業の関連箇所を目を通す 復習：2時間程度 授業中の配布資料や授業内容をまとめる 授業に関する課題に取り組む
教科書・参考書	・大浦賢治編著 「実践につながる新しい乳児保育 ともに育ち合う保育の原点がここに」 ミネルヴァ書房(2023) ・配布資料
成績評価方法と基準	試験、毎回の小テストの成績、授業中の課題やグループワーク、授業への意欲・態度等を考慮し、総合的に評価する。 授業態度(10%) 試験(50%)、課題(40%)  試験の記述課題などはルーブリックを用いて評価する。
課題等に対するフィードバック	・小テストについてオンラインで採点及び解説を行う。 ・課題の中で授業へのコメントや質問を受け付け、授業で応答を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・本科目は保育士資格取得の必修科目である。 ・課題を必ず提出すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合の 授業の進め方 授業を動画とし、課題もWebClass等オンラインで行う。  成績評価方法と基準 評価基準は変わらないが、 授業態度は課題の取り組みやフィードバックシートの記入を通して行う。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	乳児保育 (U1組)
授業コード	BM277A
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	田口 直子, 高瀬 真由美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この科目では乳児保育(3歳未満児)に必要な知識や技能、態度を習得することを目的とする。乳児期は、人間の成長・発達が最も著しく人格形成の基礎を作る重要な時期である。この大切な時期の子どもの心身の発達や生活の仕方を保育所における乳児保育・施設における乳児保育・その他の施設における乳児保育に分けて学び演習において体験的に理解することを目的とする。また子どもを取り巻く子育て環境の社会的現状を知り、保育者として必要な専門的知識と実践技能の習得を図る。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士としての実務経験から経験的な視点を交えて演習を展開する。
到達目標	保育の実践的な活動を支え、それに不可欠な乳児に関する専門的知識や技能を習得するため、下記の内容を到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の現状及び課題について理解する。</li> <li>・3歳未満児の子どもの心身の発達とその支援に関する知識を深める。</li> </ul> 幼児保育学科のディプロマポリシーに掲げる、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容に関わる科目である。
計画・内容	担当：田口(保育士) 1) 乳児保育の基本 予習：テキストの購入とノートの準備 復習：乳児の定義についてまとめる 2) 保育所における乳児保育の物的環境 予習：保育所の乳児クラスの物的環境をまとめる 復習：学習のまとめとノートの整理 3) 保育所における乳児保育の人的環境 予習：保育所の乳児クラスの人的環境をまとめる 復習：学習のまとめとノートの整理 4) 乳児保育の実際1(外部講師) 予習：資料通読 復習：復習：学習のまとめとノートの整理 5) 乳児保育の実際2(外部講師) 予習：資料通読 復習：復習：学習のまとめとノートの整理 6) 乳児保育の環境づくり 予習：教科書を読む 復習：学習のまとめとノートの整理 7) 多様な保育現場における乳児保育の現状と課題 予習：家庭的保育・小規模保育所を調べる 復習：社会的ニーズに合わせた保育の課題をまとめる

## 2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>8) 乳児保育体験～養護～  予習：手順と方法を学ぶ  復習：実施時の配慮についてまとめる</p> <p>9) 乳児保育における他機関との連携  予習：教科書を読む  復習：学習のまとめとノートの整理</p> <p>10) 保育所保育指針に基づく乳児保育のあり方  予習：保育所保育指針P.13-p.22までを読む  復習：学習のまとめとノートの整理</p> <p>11) 乳児保育における保護者支援  予習：教科書を読む  復習：学習のまとめとノートの整理</p> <p>12) 乳児の心とからだ1  予習：0歳児クラスにおける保育を振り返る  復習：学習のまとめとノートの整理</p> <p>13) 乳児の心とからだ2  予習：1歳児クラスにおける保育を振り返る  復習：学習のまとめとノートの整理</p> <p>14) 乳児の心とからだ3  予習：2歳児クラスにおける保育を振り返る  復習：学習のまとめとノートの整理</p> <p>15) 幼児の保育に移行する時期の保育/まとめ  予習：テキスト第9講を読む  復習：学習のまとめとノートの整理</p>
授業の進め方	適宜、時事問題を取り入れグループでの話し合いや実践を取り入れ授業を進める。
能動的な学びの実施	自ら乳児にふれあう機会をつくり、学びの実践を試みる。 保育所保育指針を参照し主体的に乳児保育を学ぶ。
授業時間外の学修	予習：30分 テキストの授業箇所を目を通す 復習：30分 ノートのまとめと調べ学習
教科書・参考書	<p>「実践につながる新しい乳児保育 ともに育ち合う保育の原点がここに」  ミネルヴァ書房 (2023) 大浦賢治編著</p> <p>「保育所保育指針&lt;平成29年告知&gt;」 フレーベル館</p>
成績評価方法と基準	定期試験の成績と提出物・授業への意欲・態度等を考慮し、総合的に評価する。 定期試験(60%)、提出物(20%)、授業参加(20%)
課題等に対するフィードバック	提出物にコメントをつけて返却
オフィスアワー	CampusSquare参照
留意事項	本科目は保育士資格取得の必須科目である。 課題の提出、グループワークや発表は保育現場で必要とされる記録や協働性を高める目的で行う。そのため欠席をするとグループでの活動が滞ることを理解して授業に参加することがのぞまれる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせで行う。 定期試験(60%)、提出物(20%)、授業への意欲・態度(20%)

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	子ども文化教育演習 (U1組)
授業コード	BM110A
英語名称	Exercise in Children's Culture Education
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	安部 久美, 高橋 由佳
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>保育所・幼稚園・認定こども園では、絵本、紙芝居、わらべうた、伝承遊びなどの児童文化財を介して保育が展開されている。本演習では、次の を通して保育者としての資質を高めていくことを目的とする。</p> <p>保育の現場の事例研究などを通して、保育で児童文化財を活用する意義を学ぶ。</p> <p>自ら教材を作成、発表を通して保育に活用できる技量を身に付ける。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>保育士資格を持ち、元幼稚園教諭である教員による講義を通して、子どもたちの感性を育むため欠かせない児童文化財の基本的な知識、および児童文化財を実践するにおいて必要とされる態度および技術を身につけることを目指す。</p>
到達目標	<p>学科がディプロマ・ポリシーに掲げる「教育学、心理学、保育学などの専門的知識や技能を習得し、乳幼児の育ちに即した教育・保育について、ねらい、内容、環境、保育方法等を、根拠と共に説明することができる。」が実現するよう、児童文化財の理解を深め、子どもの発達に合ったものを選択した上で、実践的な保育技量を身につける。また、カリキュラム・ポリシーに即し、多様化する保育・幼児教育の場で保育の発展に貢献しようとする意欲・態度を養う。</p>
計画・内容	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方と諸注意 児童文化について(安部)</p> <p>第2回 保育の中の児童文化:絵本の読み語り(高橋・安部)</p> <p>第3回 保育の中の児童文化 歌遊び:わらべうた(安部)</p> <p>第4回 手作り教材,ペープサートの教材検討(安部)</p> <p>第5回 手作り教材,ペープサートの教材作成1(安部)</p> <p>第6回 手作り教材,ペープサートの教材作成2(安部)</p> <p>第7回 手作り教材,ペープサートの教材作成3(安部)</p> <p>第8回 手作り教材,ペープサートの教材作成4(安部)</p> <p>第9回 手作り教材,ペープサートの実演と鑑賞1(安部)</p> <p>第10回 手作り教材,ペープサートの実演と鑑賞2(安部)</p> <p>第11回 手作り教材,ペープサートの実演と鑑賞3(安部)</p> <p>第12回 手作り教材,ペープサートの振り返り1(安部)</p> <p>第13回 手作り教材,ペープサートの振り返り2(安部)</p> <p>第14回 手作り教材,ペープサートの振り返り3(安部)</p> <p>第15回 まとめ(安部)</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料など適宜活用する。</li> <li>・授業で作成した教材(ペープサート)を使った実践内容を考案のうえ発表を行う。発表終了後には作品や振り返りシート、スライドを提出する。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<p>「教材等の活用」及び「作成と具体的展開」のための技術習得に主体的に取り組む内容である。また、個人発表では、製作物を用いた発表を積極的に実践する。</p>

## 2025年度 千住学部時間割

授業時間外の学修	授業時間外においても授業で提示された課題の取り組みに十分な時間をとること (各回120分程度の時間を確保する)。 授業前は、事前に配布される資料で授業内容に該当する箇所を確認する。 授業後は、授業内容の復習と課題に取り組む。
教科書・参考書	特になし 製作に必要な参考本を授業内で紹介
成績評価方法と基準	提出物(60%)、学習態度(15%)、発表(25%)を総合して評価する。 遅刻・早退・欠席は減点対象とする。
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法と基準 提出物(75%)、発表(25%)を総合して評価する。

## 2025年度 千住学部時間割

科目名称	保育・教職実践演習（幼稚園）
授業コード	BM450A
英語名称	Learning in practice for teaching
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	安部 久美, 三石 美鶴, 今西 ひとみ, 呂 暁丹, 富岡 麻由子, 小林 咲里亜, 後藤 登美子, 旦 直子, 木場 有紀, 松山 寛, 林 直美, 津田 彰, 渡辺 令子, 渡部 晃子, 田口 直子, 飯泉 祐美子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	大学4年間の教職課程関連の科目で習得してきた知識や技能の総仕上げの授業であり、既習内容の概説と定着度を確認し、不足している知識や技能を補うものである。事例研究、ロールプレイ、ICTを活用した演習等を通して、保育者の職務に関連する学びを深め、高い実践力を獲得することを目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育や教職の経験をもつ複数の学科教員の指導を含めることで、保育の実践的スキルを身につけることができる授業を行う。
到達目標	（1）保育者としての使命感や責任感、教育的愛情の涵養、（2）同僚性の形成、（3）乳幼児に対する理解の深長、（4）保育内容に関わる実践的指導力の育成を到達目標とする。カリキュラムポリシーの「学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目」「学修によって身に付けた資質・能力をさらに応用・発展させる科目」にあたる。
計画・内容	<p>検討中・今後変更予定            （ ）= 担当教員      = 教室</p> <p>第1.2回 資格、免許申請の説明、授業に向けたガイダンス(安部・渡辺) U1・U2合同            第3.4回 保育実践に関わる文献研究 構想・準備(富岡・松山)            第5.6回 保育実践に関わる文献研究 まとめ・発表(富岡・松山)            第7.8回 幼児の表現教育について(飯泉)            第9.10回 イメージを豊かにする造形表現について(渡部)            第11.12回 命の教育～適正な生き物飼育の必要性～(木場)            第13.14回 総合表現(今西)            第15.16回 座右の銘を通して言葉について考える(三石)            第17.18回 インクルーシブな保育(田口)            第19.20回 幼児期の運動遊び(小林)            第21.22回 特別支援教育(呂)            第23.24回 子育て支援とカウンセリングマインド(旦)            第25.26回 研究課題活動 計画・実施(安部・渡辺)            第27.28回 研究課題活動 まとめ・発表準備(安部・渡辺)            第29.30回 研究発表報告会(全教員) 後藤登美子先生の講話と各ゼミ会(各ゼミ担当教員)</p>
授業の進め方	<p>幼児保育学科教員が授業を分担するオムニバス形式で授業を進める。講義と演習を組み合わせ、グループワークや発表等、学生が主体的に参加できる形態で授業を進める。U1、U2の合同授業、クラス別授業、各助言ゼミごとの授業がある。原則、U1は7202教室、U2は7204教室だが、各回の担当教員によって他の教室・施設を使う場合がある。授業の計画と内容をよく確認すること。各助言ゼミでの活動時の場所は以下の通り。（敬称略）</p> <p>教室1 安部、小林、富岡            教室2 今西、田口、三石            音楽室 飯泉</p>

## 2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	家庭科室 木場・旦 調理室 渡辺 図工室) 渡部
能動的な学びの実施	・アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を必要に応じて行う。
授業時間外の学修	授業時間外学習（合計60時間程度）として、予習（各回の授業の内容について事前に調べる）、復習（各回の授業の内容についてまとめる）を各自で行うこと。
教科書・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて、プリントを配布する。
成績評価方法と基準	原則として課題50%、授業への参加態度50%として評価する。各授業回の担当教員により評価方法と基準が異なる場合があるので授業時に確認すること。
課題等に対するフィードバック	提出されたレポート、課題については添削し返却する。
オフィスアワー	CampusSquare参照
留意事項	授業の出欠は、各授業担当教員がとる。やむを得ない事情により、欠席・遅刻・早退をする場合は、必ず事前に主担当教員（U1安部、U2渡辺）とその授業回の担当教員にメールで連絡をすること。 教科書の指定はなし。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	感染症等により対面での授業実施が困難となった場合は、各授業回の内容と担当する教員の判断により、オンライン授業、課題学修、授業動画配信によるオンデマンド授業を組み合わせ実施する。成績は原則として対面時と同様に、課題が50%、授業への参加態度を50%として評価する。